



No. 25

[平成17年6月]

岡山県教育センター  
〒703-8278  
岡山市古京町2-2-14  
TEL(代) (086)272-1205  
FAX (086)272-1207  
〈障害児教育相談専用電話〉  
TEL (086)270-2335  
<http://www.edu-c.pref.okayama.jp>



## 特別支援教育の理念と基本的考え方

岡山県教育センター

所長 浮田 信明

特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議により平成15年3月に出された「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」において、従来の特殊教育から特別支援教育への転換を図るべきことが提言されて二年が経過しました。

「最終報告」によれば、特別支援教育とは「これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、その対象でなかったLD, ADHD, 高機能自閉症も含めて障害のある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し、当該児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育を通じて必要な支援を行うもの」とされています。

対象児童生徒数の量的な拡大傾向、対象となる障害種の多様化による質的な複雑化が指摘されている今日、特別支援教育の推進を支える専門性の充実は不可欠であり、組織を構成する個人の専門性の向上を図るとともに、組織としての機能の充実や関係機関相互の協働・連携体制の構築が必要です。様々な専門分野の教員の確保と相互の連携協力、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上、小・中学校における校内支援体制の整備、盲・聾・養護学校におけるセンター的機能の充実等が望まれます。

「個別の教育支援計画」の策定に伴い、県内の各養護学校では、すでにその実施・評価がより具体的に検討され、取り組みがなされてきています。また、各学校における特別支援教育コーディネーターの指名や校内の支援体制の整備状況等も岡山県は全国水準を上回っています。

より多くの人々が特別支援教育の理念を理解し、それぞれの専門性を高め、連携を強化することは、障害のある児童生徒やその保護者の大きな支えとなります。

岡山県教育センターは、カリキュラムサポート及び教育相談を核に、関係機関と協働しながら、ニーズに応じた講座開催や様々な支援事業を展開しています。この「障害児教育つうしん」でも、地域の特別支援教育のセンター的役割を担う盲・聾・養護学校の取り組みや小・中学校の特殊学級や通級指導教室での取り組みを紹介し、地域の小・中学校等と盲・聾・養護学校とのつながりを深められるようにしていきたいと考えています。

今後益々の特別支援教育の推進と障害のある児童生徒の理解と支援の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、なお一層の御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

# 笠岡市立北川小学校

児童118名の本校には、仲よし学級（知的障害学級）とのぞみ学級（情緒障害学級）があり、個性豊かな8名の児童が在籍しています。子ども達の自主・自立の大きな幸せに向け、一人一人の障害に応じた個別指導を行いながら、できるだけ交流学習を取り入れ、社会性の発達を促していくことを目標にしています。

交流する教科は児童の実態により異なりますが、儀式や行事は交流学級で参加しています。また本校には、異年齢で様々な活動をするなかよし班活動があり、児童相互の好ましい人間関係づくりに、交流学級の担任はもとより全職員で努めています。

近隣の新山小学校・吉田小学校と一緒に、3校交流学習も学期に1回行っています。それぞれの学校へ公共の交通機関を利用して訪問し、いちご摘み・うどん作り・焼き物作りなどを体験しています。本校で交流会を行う時には、招待状を心を込めて丁寧に書いたり、司会・進行役を積極的に引き受けたりするなど、とても生き生きとした姿がうかがえます。

児童数が8名と多いので、細やかな指導が難しいこともありますが、交流を意図的に設定することで、意欲面で伸びがみられます。また、周りの子ども達も交流学習や行事・集会で、本学級の児童に声を掛けたり活動を促したりして、積極的にかかわっています。今後も様々な交流を通して周りの子ども達と共に認め合い、協力しながら成長してくれることを願っています。



（教諭 原田 知子）

# 津山市立津山西中学校

本校は、生徒数570名、学級数20の学校です。障害児学級は2学級あり、一昨年「そよ風学級」「きらり学級」という愛称で呼ばれています。知的障害児学級（そよ風）には5名の生徒が、情緒障害児学級（きらり）には3名の生徒が在籍しています。それぞれの学年や実態に応じた個別指導を基本にしながら、社会性を育てていくための交流学習も積極的に取り入れています。また、今年度より、通常学級に在籍している軽度発達障害の生徒に対しても「特別支援教育」の理念に基づいた理解と支援を推進しています。

きらり学級では、木材工芸を通して、色彩やデザイン、手作業などを授業に活かしながら、自立活動の指導に取り組んでいます。特に、電動糸のこを使った作業的な学習は、「何か手に技術を持たせたい」「心豊かな人に成長してほしい」と願う保護者の思いとも重なり、生徒たちも楽しんで取り組んでいます。最初のころは線からはみだしたり残すべきところを切り落としたりとハプニング続きでしたが、慣れるにしたがって“職人の手つき”

# 岡山市立旭東小学校（通級指導教室）

本教室は、学校生活のいろいろな場面で、適応できにくい子どもに対して、それぞれの子どもの能力や特性に応じた指導を行い、生き生きとした楽しい学校生活を送ることができるように支援することを目的とした通級制の教室です。岡山市内の通常学級に在籍する子どもが月に1回から4回、指定された曜日、時刻に保護者と一緒に通ってきて、指導を受けています。個別指導を中心にしながら、グループ指導も取り入れ、情緒の安定を図るとともに、コミュニケーション能力や社会性を高めることができるようにしています。

指導にあたっては、医学や心理学の専門機関の助言を受けたり、市内4教室の担当者が研修し合う機会を設けたりしています。



本教室で一番大切にしていることは、子どもたちの在籍している在学期との連携です。毎回の通級ノートのやりとりのほか、在学期訪問や通級教室参観等も行っています。これらの取り組みを通して、子どもたちを多面的に見ることができるようになり、担任の先生とその子どもへのよりよい支援について考える貴重な機会となっています。また、連携を密にすることで、在学期や保護者の通級教室への理解も深まっています。

今後も、児童、在学期、家庭をつなぐ教室として、通級してくる子どもたちが『自分大好き・友達大好き・学校大好き』になれるよう、小さな支援を重ねていきたいと思っています。

（教諭 三宅 範子）

# つなぐ教室

になり、集中して取り組む姿勢が見られるようになってきています。

そよ風学級では、生活にかかわる単元の中で、花を育てて自然に親しんだり、織物や料理に取り組んだりすることにより手の巧緻性や技術を身に付けています。また、長さや量の計算といった生活に役立つ学習を取り入れて、将来につながる活動をしています。

日々の活動の中で、先生方や交流学級の生徒たちからも「すごいね」「とっても上手だね」とほめてもらいます。そのたびに、生徒の顔から喜びと自信があふれ、意欲的になってきています。このことが、これからの歩みにプラスになることを願ってやみません。



（教諭 安東 秀幸）

# ひらく

## 特別支援教育の国の動向と学校に求められている課題

特別支援教育への転換が提言されて以来、中央教育審議会における特別支援教育の制度の在り方や特殊教育に関する免許制度の改善についての審議、国立特殊教育総合研究所におけるLD、ADHD、自閉症に関する研究、また、各都道府県における特別支援教育コーディネーターの位置付け、校内支援体制の整備や特別支援教育推進体制モデル事業の実施等、障害児教育に関する様々な取り組みがなされています。

「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」は、「盲・聾・養護学校は、これまで蓄積した教育上の経験やノウハウを活かして地域の小・中学校等における教育につい

て支援を行うなどにより、地域における障害のある子どもの教育の中核的機関として機能することが必要である」とし、盲・聾・養護学校を地域のセンター的役割を担う学校として位置付けています。

特別支援教育において児童生徒を支援する者の専門性の充実は不可欠です。専門性に根ざした質の高い教育的対応を支える人材の育成や関係機関との協働・連携等、各小・中学校と盲・聾・養護学校及び地域でネットワークを活かした取り組みを展開していくことが求められています。各学校や地域で、特別支援教育の推進に向けた「ひらく」「つなぐ」ことのできる学校づくり・地域づくりを目指していくことが大切であると考えます。

# 岡山県立岡山聾学校

本校は、明治41年の私立岡山県教育会付設盲啞院を始まりとし、平成20年に創立100周年を迎える聴覚障害児のための学校です。専門的な早期教育が求められるため、幼稚部が設置され、0才からの乳幼児教室にも取り組んでいます。また、高等部の理容科には理容師の国家資格の取得を目指して、専攻科が設置されています。

県内に唯一の聾学校として、より豊かで、より確かな聴覚障害教育の情報提供や支援ができる学校でありたいと考えています。

## 1 公開講座

長期休業中に、年間3回程度、聴覚障害だけでなく多様な障害の理解や支援の在り方に関する講座を公開しています。

## 2 教育相談

特別支援教育コーディネーターが中心となり、各係と連携を取りながら、来校や訪問による相談に応じています。

## 3 通級による指導

通常の学級に在籍する聴覚障害児に対して、

本校と倉敷市立老松小学校で、通級による指導を行っています。

## 4 サマースクール

夏季休業中に、本校の設備や機器を活用して他校に在籍する聴覚障害児に、発音指導、聴覚管理、教育相談等の支援を行っています。

◇ 聴覚障害に関する御相談等があれば、お気軽にお問い合わせください。

TEL : 086-279-2127 FAX : 086-279-8960

URL : <http://www.okaro.okayama-c.ed.jp/okayro.htm>

(教頭 坪田 憲和)

# 岡山県立岡山西養護学校

本校は、昭和51年に開校した岡山市の西部に位置する知的障害養護学校です。現在、児童生徒数278名の県下最大規模の養護学校となっており、平成19年度に岡山南養護学校（仮称）と分離する予定です。

## 1 特別支援教育コーディネーターの設置

本校では、従来から就学相談、学校公開、学校見学等の支援を行ってきていましたが、平成16年度から校内に特別支援教育コーディネーターを配置し、学校内外の支援をさらに充実させてきました。校外の支援は、主として本校の学区内の保育園、幼稚園、小学校等を対象としています。支援の基本的な考え方として、相互にメリットのある支援にしたいと考えています。

## 2 支援の内容

活動を開始するに当たって、岡山市の専門家会議への参加や、総社市の特別支援教育スーパーバイザーとの連絡調整など、学区内の市町村教育委員会との連携を開始しました。支援内容としては教育相談、公開講座、指導方法や内容に関する相談等を行いました。その具体的内容は、次のようなものです。

就学相談、「高機能自閉症等軽度発達障害児の理解」や「自閉症理解」あるいは「特別支援



教育」等に関する研修の講師、障害児教育の教材・教具の紹介、障害児受け入れへ向けての教室設営補助、自閉症児に対応するための教室の再構造化、障害児の教育課程の相談、公開研修講座の開催、問題行動の解決の助言、本校見学の受け入れ、発達検査の実施など多様なニーズに対応してきました。

## 3 今後の活動

平成17年度は、特別支援教育コーディネーターが3人体制になりましたので、障害児の進路、障害児の健康安全など養護学校の専門性を活かしながら、より一層の支援の充実を図っていきたいと考えています。また、従来通り、学校公開や体験入学の実施、作品展参加、ホームページ開設等による知的障害児教育への理解推進や支援も行っていますので、これらも是非、利用していただきたいと考えています。



(教頭 小坂田 知生)

# 岡山県立東備養護学校

本校は、昭和60年に知的障害養護学校として開校しました。地域の特別支援教育のセンター的機能としての役割については、校務分掌に支援部（地域支援部・ネットワーク会議部・広報部）を設け、次のような三つの事業の柱を設定し、一つ一つの事業を充実させることを通して、センター的な役割を担おうと考えています。



## 1 相談事業

| 事業名     | 対象者      | 活動内容                      |
|---------|----------|---------------------------|
| 教育相談    | 障害児の保護者  | 就学・教育上の諸問題等               |
| 学習相談    | 小・中学校教職員 | 小・中学校の個別の指導計画や授業づくりに対する相談 |
| 生活・就労相談 | 卒業生・保護者  | 卒業生の生活全般、就労等の各種相談         |

## 2 研修・理解啓発事業

| 事業名         | 対象者             | 活動内容                             |
|-------------|-----------------|----------------------------------|
| 公開研修会       | 教育関係者           | 特別支援教育に関する専門性の向上を図る研修会の実施        |
| 公開授業        | 教育・療育関係者、保護者、一般 | 授業参観、施設・設備の見学                    |
| 理解・啓発シンポジウム | 教育・療育関係者、保護者、一般 | 特別支援教育への理解・啓発と共生社会実現に向けての取り組みの推進 |

## 3 地域派遣事業

| 事業名  | 対象者      | 活動内容                        |
|------|----------|-----------------------------|
| 講師派遣 | 障害児学級    | 学校訪問指導(教育課程編成、指導内容・方法等への助言) |
|      | 小・中教研研修会 | 研修会等への参加                    |

東備地域の特別支援教育ネットワークを有効に活用しながら取り組みを充実させたいと思います。

# つなぐ学校

(教頭 阿部 眞守)

本校では、平成15・16年度特別支援教育推進体制モデル事業の研究指定校として、特別支援教育における地域のセンター校的な役割の研究や関係機関との連携等の研究を行ってきました。

特別支援教育を推進するために、校内に支援部(特別支援教育推進・地域生活支援等)や自閉症プロジェクト委員会を立ち上げました。

また、特別支援教育の地域のセンター的機能として次のことを実践してきました。

- 1 特別支援教育等に関する教育相談機能
  - ・地域の保護者、教員からの教育相談
- 2 小・中学校等の職員への研修を提供する研修機能、実践研究機能
  - ・夏期オープン講座
  - ・特別支援教育を語る会、事例研究会等
  - ・フレンド交流(居住地交流)
- 3 情報を集積し提供を行う情報提供機能
  - ・個別の指導計画作成の支援
  - ・医療・福祉・労働・教育機関の紹介や連絡調整

特別支援教育のセンター校として、まず養護学校

# 倉敷市立倉敷養護学校

を知っていただきたいと考え、倉敷養護学校を会場としていろいろな研修を計画し、2年間で約1300名の教職員の方に参加していただくことができました。

今後も特別支援教育のセンター的機能を果たすべく校内研修会の充実を図り、専門性を向上し、人をつなぎ、支援をつないでいきたいと思っています。

[Link the human, Link the support]  
(人をつなぎ、支援をつなぐ)

(教頭 佐藤 隆也)



# 岡山県教育委員会だより

～障害児教育の充実に向けて～ 平成17年度

## 障害児教育の体制整備を図っています

養護学校の施設設備の充実や医療体制整備を進めます。

- 1 肢体不自由養護学校への看護師配置（新）  
日常的な医療的ケアの実施が始まります。
- 2 岡山南養護学校（仮称）の新設整備（新）
- 3 誕生寺養護学校校舎整備（新）  
基本計画を策定します。
- 4 早島養護学校校舎の増築工事

## 適切な就学の推進を図っています

### 1 障害児巡回就学相談

障害のある子どもの就学についての相談に応じます。

津山会場 7/22（金）津山市高野公民館  
備前会場 7/26（火）備前市市民センター  
倉敷会場 8/2（火）ライフパーク倉敷  
岡山会場 8/3（水）岡山ふれあいセンター  
笠岡会場 8/5（金）サンライフ笠岡  
高梁会場 8/10（水）高梁市文化交流館

### 2 教育相談

岡山県教育センターや県内の盲・聾・養護学校では、障害のある子どもの教育について、電話や面接による相談を行っています。

## 教職員の指導力の向上を図っています

### 1 障害児教育教育課程研究協議会

現行の学習指導要領の教育課程（高等部）の課題を検討するための研究協議会を年2回開催します。

（対象）県立盲・聾・養護学校の教員  
（期日）6/7（火）、11/15（火）

### 2 軽度発達障害（ADHD等）幼児研修講座

（対象）幼稚園教諭等  
（期日）8/30（火）

### 3 特別支援教育コーディネーター養成講座（3年計画）

（対象）小・中学校教諭等  
（岡山市、倉敷市を除く全校各1名研修）  
県立盲・聾・養護学校教諭等  
（期日）5/23、7/22、8/23、11/24  
の4日間（継続）

## 特別支援教育の推進を図っています

- 1 特別支援教育（軽度発達障害）サポート事業（新）
  - 特別支援連携協議会（広域・地域）の設置
  - 巡回相談員の小・中学校等への派遣
  - 専門家チームの設置
  - 巡回相談員・専門家チーム連携会議の開催
- 2 特別支援教育推進事業
  - 県立盲・聾・養護学校センター化支援事業  
・小・中学校の特殊学級等への支援教員の派遣  
・公開講座の実施
- 3 特別支援教育体制推進事業の実施
  - 文部科学省委嘱事業に岡山市を地域指定

## 障害児教育の理解推進を図っています

### 1 体験入学・学校公開

障害のある子どもやその保護者、学校、福祉施設、行政関係者、地域の方々などを対象としています。障害児教育についての講話を聞いたり、体験的に学習に参加したりできます。

岡山盲学校 11/11、2/1  
岡山聾学校 6/16、8/5、10/13  
岡山養護学校 6/24、11/25  
岡山西養護学校 6/21  
岡山東養護学校 6/6、10/18  
西備養護学校 5/31、7/6  
健康の森学園養護学校 6/16、11/11  
東備養護学校 7/4、11/9・11  
早島養護学校 6/14、10/28  
誕生寺養護学校 6/14・15・21・22、  
10/11・12、11/9・10

### 2 「こころをつなぐ作品展」

盲・聾・養護学校及び小・中学校の特殊学級の児童生徒の作品等を展示します。

（期日）11/29～12/4  
（会場）天神山文化プラザ



- ◇ 障害児教育、特別支援教育に関する最新の情報は障害児教育推進室のWebページを御覧ください。

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/shogaiji/>

# 障害児教育相談の御案内

岡山県教育センター教育相談部では、教育や養育に配慮の必要な子どもについての面接相談や電話相談を行っています。面接相談は、担任の先生が子どもや保護者と一緒に来所しての相談、保護者のみの相談、保護者と子どもの相談など、様々な形態で行うことができます。また、保護者の同意の下で知能検査や発達検査を受けることもできます。さらに、相談内容や御希望に応じて教育・医療機関等の紹介もしています。

電話相談は、障害児教育相談の専用電話を設置しています。専用電話は、面接相談の予約等にも御利用いただけます。どうぞお気軽に御利用ください。

<障害児教育相談専用電話>

086-270-2335

☆電話相談

月曜日～金曜日（9:00～17:00）

障害児教育では、一人一人のニーズに応じた教育を進めていくことが必要であり、個別の指導計画、個別の教育支援計画等に基づいた細かな取り組みが求められています。県教育センター教育相談部では、先生方の担当している子どもの理解や授業支援のために、これらの指導計画等の相談や授業づくり、指導案作成、教材に関する相談にもおこたえしています。また、WISC-Ⅲ等の検査方法等の相談にも応じています。さらに、校内における障害についての理解啓発や特別支援教育に関する校内研修についても相談に応じています。

☆面接相談 予約が必要です

火曜日～金曜日（9:00～17:00）

※1回の面接時間は約50分です

☆医師による教育相談

予約が必要です

毎月第4水曜日（9:00～12:00）

## 昨年度の面接相談から

平成16年度の相談では、延べ541回の面接相談を実施しました。これは、15年度より45回の増加です。障害種別で見ると、その中で一番多い相談が、通常の学級に在籍する高機能自閉症やLD、ADHD等の軽度発達障害といわれる子どもたちに関する相談でした。

主訴別に見ると、集団適応に関する相談が最も多く、次いで、学習、生活、就学・進路に関する相談が多くありました。相談によっては、保護者と子どもだけでなく、担任の先

生と一緒に来られるケースも多くありました。

また、心理・発達検査の実施による心理教育的アセスメントの増加や、軽度発達障害の二次的な障害も伴う複雑なケース、医療機関等の他の専門機関へつなぐケースの増加も昨年度の特徴の一つといえます。

保護者へのカウンセリングを行って悩みを傾聴し、共感的理解に努めたり、教職員等へのコンサルテーションを実施して子ども理解や支援について共に考えてまいりました。

# インフォメーション

## 研修講座



以下の講座は県教育センターが主催する研修講座です。Webで2週間前までに申し込んでください。多くの皆様の受講をお待ちしています。

詳しくは各学校にお配りしています「平成17年度岡山県教育センター案内」を御覧ください。

○夏季休業中に実施します。

1日でも受講可能です。

☆8月3日(水), 8月9日(火)

「自閉症児の理解と支援」研修講座

☆8月11日(木)

「軽度発達障害(LD, ADHD, 高機能自閉症等)児の理解と支援」研修講座

☆8月16日(火), 8月19日(金)

「特別支援教育授業づくり」研修講座

☆8月22日(月), 8月25日(木)

「特別支援教育教育相談」研修講座

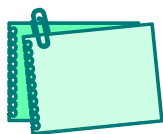
○年間3日間実施します。

1日でも受講可能です。

☆6月15日(水), 7月26日(火), 11月9日(水)

「重度・重複障害児の理解と支援」研修講座

## 図書資料



最新の図書を紹介します。校内研修等にお役立てください。図書資料室にあり、閲覧できます。

☆「自立活動における個別の指導計画の理念と実践—あすの授業を創造する試み—」安藤隆男  
川島書店

☆「ADHD及びその周辺の子どもたち—特性に対する対応を考える—」尾崎洋一郎他 同成社

☆「LD・ADHD特別支援マニュアル—通常クラスでの配慮と指導—」森孝一 明治図書

☆「LD・ADHD・高機能自閉症就学&学習支援」森孝一 明治図書

☆「自立活動の指導—新しい障害児教育への取り組み—」香川邦生, 藤田和弘 教育出版

☆「特別支援教育とこれからの養護学校」藤井聰尚 ミネルヴァ書房

## ビデオ



校内研修に御利用ください。以下のものはいつでも貸出しいたします。電話等で御連絡ください。

☆「軽度発達障害のより良き理解のために」

(社会福祉法人NHK厚生文化事業団)

第一巻 “軽度” についての基礎理解(45分)

第二巻 小学校教育の明日を考える(40分)

第三巻 学び続けるために

～高校教育を考える～(30分)

第四巻 就労支援

～社会的自立に向けて～(30分)

☆「自閉者が語る幼少時代」(V-toneライブラリー)

第一巻 とってもつらかった・・・(30分)

第二巻 気づいて欲しかった・・・(30分)

☆「軽度発達障害のある子どもたち」(同上)

第一巻 障害の種類と幼児期の対応

～AD/HD、ASを中心に～(30分)

第二巻 保育における対応と支援(30分)

《編集後記》

皆様の御協力をいただき、「障害児教育つうしん」25号を発行することができました。

このつうしんが先生方のお役に立ち、特別支援教育の充実・発展に寄与できることを願っています。



No. 26

[平成18年6月]

岡山県教育センター  
〒703-8278

岡山市古京町2-2-14

TEL(代) (086)272-1205

FAX (086)272-1207

〈障害児教育相談専用電話〉

TEL (086)270-2335

<http://www.edu-c.pref.okayama.jp>



## 特別支援教育の今とこれから

～県教育センターの目指すもの～

岡山県教育センター

教育相談部長 藤井 和郎

今日では「特別支援教育」の言葉も定着し、盲・聾・養護学校のセンター的機能の充実をはじめ、各学校での特別支援教育コーディネーターの指名や校内支援体制の構築など、様々な形で特殊教育から特別支援教育への転換が図られています。

また、平成17年12月の「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」を受けて、学校教育法施行規則の一部改正が平成18年4月1日に施行されました。この改正により、通級による指導において、(1)対象者にLD、ADHDの児童生徒を加えること、(2)自立活動及び教科指導の補充のための標準時数を年間35～280単位時間とすること、(3)LD、ADHDの児童生徒の標準時数は年間10～280単位時間とすること等の内容が、法令上で新たに加えられました。

さて、特別支援教育においては、個々の児童生徒のニーズに応じた適切な支援を、地域の関係機関と連携を図りながら行っていくことが重要です。また、学校現場では、支援体制が構築された後にも、「PDCAサイクル」の考え方に基づく点検・評価と改善が行われ、一人一人のニーズに応じた支援体制の強化・充実を図っていく努力がなされているところですが、今後も支援に携わる先生

方一人一人の知識・理解と技能両面での専門性のより一層の向上が求められます。

その一助として、岡山県教育センター教育相談部では、教育相談及びカリキュラムサポートを核に、関係機関とも協働しながら、普遍的、今日的課題をとらえた研修講座の開催や支援事業の展開をしていきたいと考えています。必要な情報・資料の収集と提供、ニーズや課題に寄り添った学校支援等、フットワーク、チームワーク、ネットワークを生かした、動きの見える県教育センターを目指しています。

この「特別支援教育つうしん」でも、盲・聾・養護学校の取り組みや小・中学校の特殊学級や通級指導教室での取り組みを紹介し、地域の小・中学校等と盲・聾・養護学校とのつながりを深めることができるようにしていくとともに、特別支援教育の充実に向けての必要な情報を提供していきたいと考えています。

今後益々の特別支援教育の推進と、障害がある児童生徒の理解と支援の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、なお一層の御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

◇第26号より、名称新たに「特別支援教育つうしん」となりました。今後ともよろしくお願いいたします。

◇題字は、岡山県立新設養護学校開校準備事務局 事務局長 大石 隆夫 先生にお願いして作っていただきました。特別支援教育への思いが詰まった温かい題字にさせていただき、ありがとうございました。



# 真庭市立勝山小学校

本校は、城下町勝山を流れる旭川のすぐ西側に位置し、児童数293名の学校です。障害児学級は3学級あります。ひまわり学級（知的障害児学級）には4名、わかば学級（情緒障害児学級）には1名、すずらん学級（肢体不自由児学級）には1名が在籍しています。それぞれの学年や障害に応じた個別学習を行うとともに、交流学級との活動や学習にも計画的に参加できるようにし、友達とのコミュニケーションづくりを大切にした指導を行っています。

例えば、三つの障害児学級の合同学習の時間も設定しています。ここでは、様々な体験や交流を通して、少しずつ社会性を身に付けながら、すくすく成長してくれることを願い、学習集団や学習活動の工夫をしています。6名の児童が仲良く協力しながら生活単元学習に取り組んでいます。その一つが野菜作りです。春に野菜の苗やジャガイモを植え、収穫まで、水やりや草取りなど野菜の世話に頑張っており取り組んでいます。収穫した野菜はみんなで調理し、お客さんを招いて収穫祭をします。自分たちが育てた野菜を自分たちで収穫し、味わい、そして他の人にも喜んでもらえるということも楽しい学習が出来ています。その他、クリスマスや節など季節の行事に合わせた生活単元学習も計画しています。

さらに、年3回の真庭市・真庭郡障害児学級交流会へも参加しています。あいさつや自己紹介、物作りや買い物ごっこ、スキナーなどの活動を通して自然の中で楽しく体を動かし、他校の友達との交流を広げたり深めたりしています。



（教諭 野村 園江）

## ひらく

### ＜特別支援教育を考える＞

平成15年3月の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」の提言以来、「特別支援教育」という言葉も定着してきました。この「ひらく・つなぐ教室、学校」のシリーズも3回目を迎え、今回で終わりとなります。そこで、改めて「ひらく・つなぐ」とはどうかを考えてみたいと思います。

**「だれとだれが、どのように連携していくことが特別支援教育を推進していくことになるのか」**—— キーワードはこれです。

児童生徒一人一人のニーズに応じた支援をするためには、学校において児童生徒理解を深めることはもちろん、保護者の方や、場合によっては医療や福祉、教育等の専門機関か

# 赤磐市立赤坂中学校

生徒135名の本校には、さつき学級（知的障害児学級）とわかば学級（情緒障害児学級）があり、4名の生徒たちが在籍しています。二つの学級で給食や清掃などの活動を一緒に行っています。

学校生活の中心となる学級が、安心して話したり自分たちのペースで取り組んだりすることができる場所となるようにしています。また、「生徒が生活の場を広げていく力（基礎学力やコミュニケーション能力等）」を身に付けることができるよう心掛けています。個別に学習する時間と集団の中で学習する時間の意義を全教職員が認識して必要な支援を行っています。

生徒も教師も楽しみにしている給食の時間。自分たちの食事の準備・配膳は自分たちでしています。身支度を整えるのも盛りつけをするのも、この1か月のうちにずいぶん手際よくできるようになりました。改めて自分たちですることや毎日続けることの大切さを感じています。おいしい給食をいただきながらいろいろな話に花が咲きます。

最近の一番のニュースは、学級で飼っている金魚に赤ちゃんが誕生したことです。小さな稚魚が、10匹ぐらい元気に泳いでいます。寒い日の水槽の掃除、毎日の餌やりなど生徒たちの優しい気持ちがあつてこそその出来事でした。一日一日の積み重ねの中で、生徒たちはたくましく成長してくれています。ともに過ごす時間をこれからも大切にしたいと思います。

（教諭 片山 美代子）

一人一人のニーズに応じた支援のための「連携」は、その子の課題を多方面から見つめ、互いに情報を共有した上で、それぞれの支援者が「同じ方向」を向いて支援していくことによって個々の児童生徒に役立つものとなります。そうすることが、**その子の将来へつながり、未来をひらくことになるのではないのでしょうか。**

## つなぐ教室

らせるだけでなく、逆に、在籍学級や家庭での様子を知らせてもらうことにより、子どもを多面的に理解し、指導に生かすよう心掛けています。在籍学級の先生には、教室説明会や授業公開を通じて、子どもの頑張っている様子や在籍学級で配慮してほしいことを伝えています。また、保護者には、送迎時や夏の個人懇談を通じて子どもの様子を伝えたり、日々の悩み事について話し合ったりしています。

また、平成17年度から本校の1年生に対して、授業の一環として、「ことばの教室」説明会を行っています。1年生の子どもたちに「ことばの教室」の具体的な取り組みを知ってほしい、通級児に喜んで通ってもらいたい、1年生のクラス全員が通級児を温かい気持ちで送り出してほしいという願いから始めました。ことばの教室としての機能を十分果たし、なおかつ、通級児が喜んで通い、保護者の方が安心して通わせることのできる「ことばの教室」でありたいと思い、日々研鑽しているところです。

（教諭 高田 和美）

＜ことばの教室 1年生への説明会＞



# 総社市立総社小学校

（通級指導教室）

本教室は、昭和51年に言語障害児通級教室として総社小学校内に開設され、翌52年には総社幼稚園の教室も併せて開設されました。その後、「ことばの教室」という親しみやすい名前に変更され、現在に至っています。現在は、小学生担当2名、幼児担当1名の3名体制で運営しています。

本教室には、言葉に関する難しさや対人関係、社会生活等に関する難しさを抱えている子どもたちが通っています。その一人一人に合わせた指導ができるように、マンツーマンで個別指導（一部グループ指導）を行っています。通級児が自信を持って在籍学級で生活できることを願い、その子の困っているところを支援しながら、できるようになったことはもちろん、過程の頑張りを賞賛することにより、自己有能感を育てる努力をしています。

また、在籍学級の先生や家庭との連携も大切にしています。連絡ファイルを利用して、日々の指導の様子を知

# 岡山県立岡山養護学校

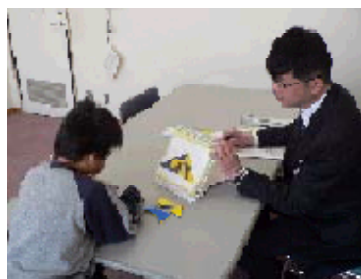
岡山養護学校は肢体不自由養護学校として開校し、45年目を迎えました。社会福祉法人「旭川荘」に隣接し、現在約130名の児童生徒が在学しています。本校は、一昨年度より「特別支援室」に3名の特別支援教育コーディネーターを配置し、日常の教育活動の充実と共に、障害の種別にとらわれず、特別支援教育におけるセンター的な役割を担うために、就学前から学齢期の子供たちの指導、進路に関する相談等に広く応じる体制を整えています。

本校は、肢体不自由児の教育を専門とした学校ではありませんが、現在までに本校に依頼、要請があったサポート事業、またセンター的機能を発揮すべき活動において、LD、ADHD、高機能自閉症等のいわゆる軽度発達障害に関する教育相談が大多数を占めているのが実情です（昨年度の相談等の延べ件数は、約120件）。

今後も、特別支援教育コーディネーターを窓口にして、一人一人のニーズに応えるべく、本校の

資源を最大限に活用しながら、実践を積み重ねていくことを大切に考えています。特別支援教育における、社会のニーズと本校の使命とを今一度見直し、問い直しながら、様々な形での広報、啓発活動等にも力を注ぎつつ、関係諸機関との連携を基盤に、全校教職員一丸となって、よりよい支援の在り方について探っていきたいと考えています。

（教頭 佐藤 一法）



## ひらく

# 岡山県立早島養護学校

本校は、県内唯一の病弱養護学校であり、併設された肢体不自由部門とともに、隣接する南岡山医療センターと連携のもと、全県および県南の中部地域を対象とした特別支援教育のセンターとしての役割を担うべく3か年計画で取り組んでいます。

- 1年次（H16）は「特別支援教育推進委員会」を中心に基本的な立場をまとめ、将来への展望を明確にしました。
- 2年次（H17）は「支援推進部」を中心に具体的準備を開始し、関係機関とのネットワークの構築、校内支援・校外（地域）支援の体制づくりに取り組み、支援会議・移行支援会議を企画し開催しました。同時に「校内組織再編検討委員会」で、各分掌が連携し学校全体で取り組む推進体制やコーディネーターの役割等の検討を重ね、新しい校内組織がスタートしました。
- 3年次（H18）の本年度は特別支援教育推進に向けて実践的な活動に取り組みます。「支援推進部」を要とした新しい体制の定着、個別の教育支援計画の活用、支援会議の充実、

早島町に基軸を置いた諸機関との連携の拡大、各小・中学校の病弱・肢体不自由教育担当者の連絡協議会の設立と支援、さまざまな障害にかかわる公開講座の開催などを計画し実施します。また、2名のコーディネーターを中心に支援活動を行い、さらに、新たな広報誌を発行して本校の取り組みの情報を提供し、身近で分かりやすく相談しやすい特別支援教育のセンターを目指します。

（教頭 田村 嘉子）



# 岡山県立西備養護学校

本校は、笠岡市北部の丘陵にあります。昭和56年に知的障害養護学校として開校し、平成16年には肢体不自由部門が併設されました。本校では、地域の特別支援教育のセンター的な役割を果たすため、校内に支援部を設け、次のような活動を行っています。



## 1 特別支援教育に関する相談

障害のある幼児・児童生徒の養育、学習、就学、就労、生活など種々の相談に応じています。保護者や学校の先生方などの来談、電話等の相談などがあります。

## 2 研修・理解啓発

平成17年度は夏季休業中に外部講師による研修会を行い、地域の学校、関係機関等に公開しました。公開講座には、予想を大きく上回る方々の参加をいただきました。また、学校説明会や高等部進学説明会なども行いました。

## 3 小・中学校等の支援

要請を受けた学校を訪問し、通常の学級や特殊学級の障害のある児童生徒の指導についての相談を受けたり、研修会の講師として研修に協力したりするなどの支援を行っています。特に平成17年度から始まった特別支援教育（軽度発達障害）サポート事業では備南地区の拠点校として数多くの相談に対応しています。

## 4 関係機関との連携

井笠障害児者地域生活支援ネットワークや保健所のネットワークに参加しています。これにより、各関係機関と円滑に連携することができ、困難な課題にもケース会議などにより手厚い対応をすることができています。また、本校の活動についても、この場で発信を行っています。

地域と連携しながら、より開かれた学校、より専門性の高い学校を目指し、地域の期待に応えられるよう努力を重ねていこうと思っています。

(総括教頭 森安 純一)

# つなぐ学校

本校は、昭和40年、岡山大学教育学部附属小学校・中学校の特殊学級を統合し、附属養護学校として新設され、現在に至っています。全校児童生徒60名（定員）の知的障害養護学校で、小規模ならではのきめ細やかな指導を行うとともに、大学の附属学校という特長を生かし、岡山大学教育学部の教員と連携した取り組みを行っています。

特別支援教育のセンター的機能については、主に次のような取り組みを行っています。

## 1 教育相談

電話や来校による相談を受けています。保護者からは、お子様の発達についての不安や、家庭でどのような取り組みをすればよいのかといった相談、先生方からは、教材についての質問や児童生徒の実態把握の方法などについての相談が多く寄せられています。

なお、教育相談では、岡山大学教育学部が運営している「発達支援相談室」と連携した取り組みも行っていきます。

## 2 特別支援教育コーディネーターの役割

特別支援教育コーディネーターは、校内の教育を充実するための支援とともに、近隣の学校園

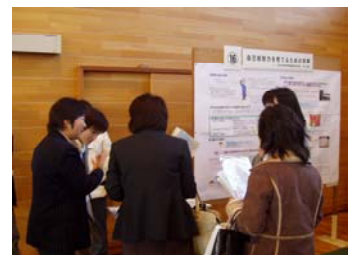
# 岡山大学教育学部附属養護学校

への支援も行っています。電話での相談や、必要に応じて出向いて行う支援、幼・小・中の先生方の研修に対する支援などを行っています。今年度から、ホームページによる特別支援教育に関する情報提供も行っています。

## 3 授業公開・研究協議会

毎年行っている学校公開（5月・9月）や研究協議会（1月）では、各学部・学級が授業を公開しています。研究協議会では、公開授業の他に、授業についての検討会、学校内外の先生方が行うポスター発表、講演会なども行い、特別支援教育にかかわる方々の情報交換や研修を深める機会となっています。

(副校長 仲矢 明孝)



<ポスター発表>

平成18年度

# 岡山県教育委員会だより

～特別支援教育の充実に向けて～

## 盲・聾・養護学校の体制整備を図っています

養護学校の施設設備の充実や医療体制整備を進めます。

- 岡山南養護学校（仮称）の開校（19年4月）
- 誕生寺養護学校の校舎等の整備（実施設計等）
- 肢体不自由養護学校への看護師配置（日常的な医療的ケアの実施）

## 適切な就学の推進を図っています

### 1 特別支援教育巡回就学相談

障害のある子どもの就学について、相談に応じています。

- 備前会場 7月25日（火）備前市市民センター
- 笠岡会場 7月27日（木）サンライフ笠岡
- 倉敷会場 7月28日（金）ライフパーク倉敷
- 新見会場 8月1日（火）新見市保健福祉センター
- 津山会場 8月4日（金）津山市高野公民館
- 岡山会場 8月11日（金）岡山ふれあいセンター

### 2 教育相談

岡山県教育センターや県内の盲・聾・養護学校では、障害のある子どもの教育について電話や面接による相談を行っています。

## 教職員の指導力の向上を図っています

### 1 特別支援教育教育課程研究協議会

小・中学校障害児学級等の充実を図るため、編集委員会を組織し指導上参考となる資料を作成します。

### 2 軽度発達障害研修講座

（対象）幼稚園教諭等  
（期日）8/30（水）

### 3（新）軽度発達障害研修講座

（対象）公立高等学校教諭等  
（期日）7/21（金）

### 4（新）障害児学級等担当教員研修講座

（対象）小・中学校障害児学級担当教諭  
（期日）夏期休業中  
（場所）養護学校4校会場

### 5 特別支援教育コーディネーター養成研修（3年計画）

（対象）小・中学校教諭等  
（岡山市、倉敷市を除く、全校各1名研修）  
盲・聾・養護学校教諭等  
（期日）5/23、7/20、8/21、11/22  
の4日間（継続）

## 特別支援教育の推進を図っています

- 1 特別支援教育（軽度発達障害）サポート事業
  - 特別支援連携協議会（広域・地域）の設置
  - 巡回相談員の小・中学校等への派遣
  - 専門家チームの設置
  - 巡回相談員・専門家チーム連携会議の開催
- 2 特別支援教育推進事業
  - 県立盲・聾・養護学校センター化支援事業・小・中学校の特殊学級等への巡回相談・公開講座の実施
- 3 特別支援教育体制推進事業の実施
  - 文部科学省委嘱事業に岡山市を地域指定

## 盲・聾・養護学校の理解推進を図っています

### 1 体験入学・学校公開（県立）

障害のある子どもやその保護者、学校、福祉施設、行政関係者、地域の方々などを対象としています。特別支援教育についての講話を聞いたり、体験的に学習に参加したりできます。

岡山盲学校 11/15、2/2

岡山聾学校 6/15、8/4、10/18

岡山養護学校 6/23、11/24

岡山西養護学校

6/19・26、10/16・23、11/13

岡山東養護学校 6/6、10/18

西備養護学校 5/30、10/4

健康の森学園養護学校 6/15、11/27

東備養護学校 7/5、11/6・7・8・10

早島養護学校 6/27、10/24

誕生寺養護学校 6/13・14・20・21、

10/10・11、11/7・8

◇その他の学校については、直接当該校にお問い合わせください。

### 2 盲・聾・養護学校紹介展

盲・聾・養護学校の教育内容等の紹介（パネル展示等）や教育相談等を実施します。

（期日）12/7（木）～12/11（月）

（会場）アルネ津山4階 展示ホール

## ◇◇特別支援教育室のホームページ◇◇

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/tokubetu/>

特別支援教育に関する最新の情報を掲載しています。

# 障害児教育相談の御案内

## カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーションの‘3C’を大切にしています

岡山県教育センター教育相談部では、教育や養育に配慮の必要な子どもについての面接相談や電話相談を行っています。面接相談は、保護者のみの相談、保護者と子どもの親子並行相談、担任の先生が子どもや保護者と一緒に来所しての相談など、様々な形態で行うことができます。また、指導に生かすために保護者の同意の下で知能検査や発達検査を受けることもできます。さらに、相談内容や御希望に応じて教育・医療機関等の紹介もしています。

電話相談は、障害児教育相談の専用電話を設置しています。専用電話は、面接相談の予約等にも御利用いただけます。お気軽に御利用ください。

＜障害児教育相談専用電話＞  
086-270-2335

☆電話相談  
月曜日～金曜日（9:00～17:00）

特別支援教育では、一人一人のニーズに応じた教育を進めていくことが必要であり、個別の指導計画、個別の教育支援計画等に基づいた細かな取り組みが求められています。県教育センター教育相談部では、先生方の担当している子どもの理解や授業支援のために、これらの指導計画等の相談や授業づくり、指導案作成、教材に関する相談にもおこたえしています。また、WISC-Ⅲ等の検査器具の貸し出しも行っています。さらに、校内における障害についての理解啓発や特別支援教育に関する校内研修についても相談に応じています。

☆面接相談 予約が必要です  
火曜日～金曜日（9:00～17:00）  
※1回の面接時間は約50分です

☆医師による教育相談  
予約が必要です  
毎月第4水曜日（9:00～12:00）

## 昨年度の面接相談から

平成17年度は、延べ827回（前年度541回）の面接相談を実施しました。これは、前年度比52.9%の増加で、LD、ADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害児への継続的な支援とともに学校への継続的なコンサルテーションを行うことが増えたためです。

校種別では小学校が全体の約7割（内、通常学級に在籍する子どもが8割）を占め、次いで中学校、就学前の順となっています。

主訴別に見ると、集団適応に関する相談が

最も多く、次いで、学習、生活に関する相談が多くありました。

当センターでは、保護者へのカウンセリングを行って悩みを傾聴し、共感的理解に努めたり、教職員へのコンサルテーションを実施して子ども理解や支援について共に考えたりしました。

また、心理・発達検査によるアセスメントを支援に生かして家庭や学校と連携したり、遊びや物作りを通して、子どもの心理的安定やスキルの習得を図ったりもしました。

# インフォメーション

## 研修講座



以下の講座は岡山県教育センターが主催する研修講座です。Webで2週間前までに申し込んでください。多くの皆様の受講をお待ちしています。

詳しくは各学校にお配りしています「平成18年度岡山県教育センター案内」を御覧ください。

○夏季休業中に実施します。

1日のみでも受講可能です。

☆5月30日(火)、6月27日(火)

「心理教育的アセスメント演習講座」

※同じ内容の講座なので、どちらか一日のみを選択。

☆6月6日(火)、8月2日(水)、8月17日(木)

「重度・重複障害児の理解と支援」研修講座

(上記二講座の第1日は終了いたしました)

☆8月4日(金)、8月28日(月)

「自閉症児の理解と支援」研修講座

☆8月9日(水)、8月18日(金)

「特別支援教育授業づくり」研修講座

☆8月11日(金)

「軽度発達障害(LD, ADHD, 高機能自閉症等)児の理解と支援」研修講座

☆8月22日(火)、8月29日(火)

「特別支援教育教育相談」研修講座

## 図書資料



最新の図書を紹介します。校内研修等にお役立てください。図書資料室にあり、閲覧できます。

☆「幼児期から児童期への教育」国立教育政策研究所教育課程研究センター ひかりのくに

☆「LD・ADHDへのソーシャルスキルトレーニング」小貫悟, 名越斉子, 三和彩 日本文化科学社

☆「日本LD学会 LD・ADHD等関連用語集」日本LD学会編 日本文化科学社

☆「軽度発達障害の心理アセスメント」上野一彦, 海津亜希子, 服部美佳子 日本文化科学社

☆「いい人間関係ができる子に育てたい 友達作りの能力を伸ばす親の工夫」佐々木正美 新紀元社

## ビデオ・DVD



校内研修に御利用ください。以下のものは貸し出しいたします。まずは電話等で御連絡ください。貸出期間は、一週間以内です。

☆「発達障害実践シリーズI」

(社団法人神奈川学習障害教育研究協会)

第1巻 軽度発達障害のころ (宮本信也先生)

第3巻 特別支援教育のシステムの中で生きぬく教師になるために (上野一彦先生)

第5巻 軽度発達障害への実践 (佐々木正美先生)

第6巻 自立と就労 (梅永雄二先生)

第7巻 自立した生活や就労にむけて、学齢期

の間に学校でしておくべきこと (同第6巻) 昨年度好評だった以下のビデオも引き続き貸し出しいたします。

☆「軽度発達障害のより良き理解のために」

(社会福祉法人NHK厚生文化事業団)

第一巻～第四巻

☆「自閉者が語る幼少時代」(V-toneライブラリー)

第一巻・第二巻

☆「軽度発達障害のある子どもたち」(同上)

第一巻・第二巻

《編集後記》

皆様の御協力をいただいて、「特別支援教育つうしん」26号を発行することができました。

このつうしんが先生方のお役に立ち、特別支援教育の充実・発展に寄与できることを願っています。

よりスピーディーな情報発信としてWebで講座内容もアップする方向です。ぜひ御利用ください。

No. 27

[平成19年6月]

岡山県総合教育センター  
〒716-1241  
加賀郡吉備中央町吉川7545-11  
TEL (代) (0866) 56-9101  
(特別支援教育部) (0866) 56-9106  
(特別支援教育部相談専用電話)  
TEL (0866) 56-9117  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>



## 岡山県総合教育センターの特別支援教育

岡山県総合教育センター  
所長 中井 智子

今年度4月から、岡山県総合教育センターが、豊かな自然に囲まれた吉備高原の地で、新たにスタートしました。

当総合教育センターは、岡山県の教育の充実と発展のため、本県教育の基本方針に沿って、社会の変化や学校等の要請を踏まえ、関係機関等との連携のもと、学校教育を総合的に支援する教育機関としての機能の充実に努め、子どもたちの確かな学びとたくましく豊かな心を育てることのできる、活力ある学校を目指して取り組む学校の支援に、職員一丸となって努めてまいります。

さて、教育改革が急速に進む中、平成15年3月に、特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議から「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」が、平成17年12月には、中央教育審議会から「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」が出され、新たに特別支援教育に関する方向性が示されたところです。

また、学校教育法の一部を改正する法律が平成19年4月1日から施行され、「盲・聾・養護学校」が「特別支援学校」に、「特殊学級」が「特別支援学級」にそれぞれ名称変更されるなどの改正の中で、学校においても一層明確に特別支援教育を位置付け、子どもたち一人一人の教育的ニーズに的確に応えることが求められています。

当総合教育センターでは、こうした動向を踏まえ、新たに特別支援教育部が新設されました。特別支援教育部では、研修講座、教育相談、カリキュラ

ムサポートなど、学校のニーズや課題に応じた支援の充実を図ることを目指しています。研修講座では、専門的、普遍的内容とともに、国や県の動向や今日的課題を踏まえ、全ての教員が障害の特性を理解し対応できることを目指して特別支援教育基礎講座を新設しました。また、教育相談では、来談者に対して、子どもや保護者の抱えている困難さについて理解しながらカウンセリングを行うとともに、コンサルテーションの充実を図り、一人一人の子どもに応じた支援について共に考えていきます。さらに、学校に対しては障害のある子ども一人一人に応じた、より有効な校内支援体制を整備することを目的として学校コンサルテーションも行います。カリキュラムサポートでは、校内研究や授業づくり等について、電話やセンターでの相談のみならず、学校に出向き、学校の実態を身近に感じ、共に考えながら支援を行います。

この「特別支援教育つうしん」では、特別支援学校の取り組みや小・中学校の特別支援学級や通級指導教室での取り組みを紹介し、地域の小・中学校と特別支援学校とのつながりを深めることができるようにしていくとともに、特別支援教育の充実に向けて必要な情報を提供していきたいと考えています。

今後益々の特別支援教育の推進と、障害のある子どもたちの理解と支援の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、一層の御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

# ひらかれた学級・教室

## 岡山市立鹿田小学校

ひまわり学級は、知的障害特別支援学級1学級、情緒障害特別支援学級2学級で、12名の児童が在籍しています。学年も発達段階も障害の特性も様々な子どもたちが、にぎやかに生活しています。

ひまわり学級では、毎年、学級園でたまねぎを育てています。秋に苗を植え、春は草抜きをし、初夏に収穫です。しばらく乾かした後、たまねぎ売りの準備を始めます。はかりで重さを量って、袋に入れるたまねぎの数を工夫しながら袋詰めをしたり、宣伝用のポスターを描いたりして準備を整えます。「いらっしゃいませ」「おいしいたまねぎはいかがですか?」「一袋50円です」など、お店屋さんの台詞も練習します。

そして、たまねぎの袋を入れたかごを持って、職員室へ。お客さんは、校内の先生方です。去年は、業間休みの間に、たちまち完売。子どもたちは、売上金をうれしそうに持って帰ってきました。その後、売上金で、にんじんやじゃがいも、お肉を買い揃えて、最後は、大好きなカレーライスを作ります。子どもたちの豪快な食べっぷりには、ちょっとびっくりさせられます。

さあ、今年も、収穫の時期が近付いてきました。今年も、暖冬や春冷えの影響でやや小さいみたいですが、楽しいたまねぎ売りの活動がもうすぐ始まります。

(教諭 築山 道代)



## 矢掛町立矢掛中学校

本校は、生徒数352名、学級数14の学校です。特別支援学級は2学級で、知的障害特別支援学級(A1)2名、情緒障害特別支援学級(A2)2名の生徒が学んでいます。

昨年度、新たに情緒障害特別支援学級ができました。情緒障害特別支援学級の担任として手探りの一年でした。コミュニケーションを取りにくく、特に同年代の生徒に対しては緊張してしまう生徒たちでした。生徒たちが「できるだけ多くの会話の経験をすることができるように」「コミュニケーションの能力を高めていくことができるように」という気持ちで、月に1回「きっさA2」と名付けたお招き会を開きました。お客様の多くは本校の先生方と、A1学級の生徒たちです。教室を飾り、招待状やメニュー表を作りました。簡単なおやつを作り、お茶を入れ、世間話をしました。日ごろの緊張した顔とは変わって笑顔が見られました。一生懸命おもてなしをしようという気持ちが伝わりました。接待の仕方にも慣れてきたので「クリスマス会」「立志お祝い会」と題して二人そろっての出し物の披露も企画しました。練習を重ねることはできませんでしたが、気楽な雰囲気を大事にしました。「新年お楽しみ会」では、井原鉄道を利用して、沿線の小学校の児童を招待しました。この会では、お姉さんぶりを発揮して世話をする様子がとてもほほえましく、頼もしく感じられました。

去年は、小・中学校の交流会が3回ありました。茶摘み、川遊び、バス旅行です。気心の知れた友だちとの交流会は、とても楽しい行事でした。こうした活動を通して中学生としての自信も付いてきたように思います。狭い世界になりがちな学級を、情緒を安定することができる環境を整え、みんなに愛される学級にすることを目標に、楽しみながら試行錯誤を続けています。少しずつですが、確かな成長を実感しながら日々の取り組みを頑張っています。

(教諭 月本 則子)



# 真庭市立遷喬小学校 〈通級指導教室(情緒)〉

本教室は、平成17年度6月に開設された通級指導教室です。学校生活の様々な場面で適応できにくい子どもたちに、個別の指導形態を中心にして、一人一人に応じた指導を行っています。

本教室では、「やってみよう」という思いや、「やってみたらできた」という満足感が持てるようにすることを第一に大切に考えています。また、「失敗しても間違っても大丈夫」と励まし、少しでも自信が持てるよう多様な形で取り組んでいます。

初めて通級を担当し、何を、どのようにすればよいのか手探り状態の毎日の中で、学習の最後のゲーム的な運動で汗を流すほど動き回ることが、私も子どももとても楽しみになりました。思い切り動いて楽しむ場、ほっとする場、自分のペースでできる場が必要なのだということが分かってきました。

今では、子どもたちが「今日は〇〇するんじゃない？」と、週に一度の通級を楽しみにして来るようになりました。ほんの少し難しくても、楽しい内容・教材が何か模索する毎日です。

一方で連絡ファイルに担任の先生の一言や保護者の方の思いが綴られていると、通級担当としての責任を感じ、励まされました。

子ども、学校、保護者、通級間のコミュニケーションを円滑にすることが、子どもにとって大きな力になると実感しました。真庭市の新しい通級指導教室を多くの人に知っていただき、開かれた教室を目指していきたいと思っています。

(教諭 竹田 和子)



**新設**

## 岡山南養護学校の紹介

本校は、本年度開校したばかりの新設特別支援学校で、岡山市南部の内尾にあり、岡山市（足守・高松・中山・香和中学校区を除く）、総社市、玉野市、早島町を学区としています。小学部69名、中学部52名、高等部73名の計194名が在籍する県下有数の大規模校としてスタートしました。



本校の目指す教育は、児童生徒の特性に応じて、本人及び保護者のニーズに添った指導を行い、自己の持つ可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加することができる児童生徒を育てていくことです。

そのため、以下の点に留意して指導を進めていきたいと思っています。

①個別の教育支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画に基づいた小・中学部及び高等部の一貫教育を推進します。②在籍している多くの広汎性発達障害の児童生徒に対応するための指導方法を研究していきます。③高等部では、生徒の特性やニーズ等を踏まえ、「英語」「情報」「自立活動」を選択教科として設けています。また、卒業後の生活がより豊かになるように、「自己開発（学校設定教科）」を設け、余暇活動（ボール運動・ダンス・音楽等）の指導を行います。作業学習は、「職業自立」「生活自立」の2コースに分けて指導します。また、作業種は、6作業種（農園芸・リサイクル・布工・紙工・木工・製菓）で構成されています。



〈大石 隆夫 校長先生 画〉

**校訓「やさしく 強く たくましく そして 心豊かに」**

この校訓のような児童生徒の育成を目指して、私たちは頑張っています。

(教諭 河合 勇)

# 特別支援教育コーディネーターの役割

今回は「特別支援教育コーディネーターの役割」というテーマで、4校の特別支援学校に取り組みを書いていただきました。各校の様々な取り組みの中から、代表的なものをピックアップして紹介していただいています。

## 岡山県健康の森学園養護学校

本校は県北西部の丘陵地にあり、平成3年に知的障害養護学校として開校しました。平成17年度からは備北地域の特別支援教育の拠点校としての役割を果たすために、本校の特別支援教育コーディネーターは、高梁、新見の学校園への支援を行っています。

この2年間は、発達障害への理解と支援についての相談が大多数を占め、検査を実施しながら支援の方法を共に考えたり、校内研修実施に向けてお手伝いしたりしてきました。また、障害児の早期発見・療育のために保健師が中心となっていく「在宅心身障害児通所事業」に参加し、就園・就学前の子どもや保護者をサポートしています。そして、保育園・幼稚園・小学校へのスムーズな支援の継続を考えた活動（連絡調整会議参加・支援シート及び個別の教育支援計画作成）にも取り組んでいます。



今後は、小・中学校の校内支援体制づくりと小学校から中学校、中学校から高等学校への支援の継続を視野に入れながら、相談に応じていきたいと思えます。そして、これまで以上に各関係機関と円滑な連携を図り、地域の子どもたち一人一人のニーズに応えるべく実践を積み重ねていきたいと考えています。

(教諭 中道 しのぶ, 加藤 君子)

## 岡山県立誕生寺養護学校

本校では、平成17年から特別支援教育コーディネーターが配置され、特別支援学校としてセンター的な機能を果たすべく、様々な活動に取り組んでいます。

校内に向けては、個別の教育支援計画の作成にあって、担任・保護者・出身校園との連絡調整をし、児童生徒のニーズに合ったものを作り実践の確認をしています。また、校内研修の講師や資料の提供、「教育支援だより」の編集・発刊をしています。

校外に向けては、「サポート事業」や「巡回相談員」「推進事業」「教育相談」の各事業の利用について広報し、教育支援を行ったり、「サポート事業だより」を作成し、美作地域の学校園に配布したりするなど、特別支援教育についての理解を深めていただけるよう相談、情報提供を行っています。また、美作地域の学校園の校内研修への講師派遣や特別支援教育研修会の開催などの研修支援も行っています。昨年度は、「特別支援教育研修会」でケース会議の進め方についての講演や演習を2回行いました。多数の先生方のご参加を頂き、関心の深さを痛感しました。今後も地域の先生方や本校教職員への特別支援教育の理解と啓発に努めていきたいと思えます。

(教諭 宮本 千恵子)



〈特別支援教育研修会  
H18. 8. 7の様子〉

## 岡山県立岡山盲学校

本校は、岡山市原尾島の緑豊かな操山の麓にある、今年で99年目を迎える視覚障害者のための学校です。小・中学校・高等学校に準じた教育に加えて、高等部ではあん摩師などの国家資格取得をめざした専門教育も行っています。

本校では、県内唯一の視覚障害者のための学校として地域のセンター的役割を果たすために、「視覚障害教育相談支援センター」を平成18年に開設しました。コーディネーターを中心とした関係職員で相談や支援にあたり、盲学校の施設や設備を生かしながら、次のような取り組みを行っています。場合によっては訪問による相談支援も行います。



- 1 教育相談・支援  
視覚障害乳幼児、児童生徒に対し、発達や見えにくさに合わせた具体的な支援や、保護者や先生へのアドバイス、視覚障害教育についての情報提供を行っています。また、保護者や視覚障害乳幼児、児童生徒の交流会も企画しています。就学・転入学についてのご相談も受けています。
- 2 視覚障害、視覚障害教育に関する理解啓発  
本校の教育について、あるいは視覚障害教育について理解を深めていただくための公開講座を本校で行っています。また、そのための研修についても支援しています。総合的な学習などでニーズの多い白杖や点字盤などの教材・教具も貸し出しています。  
(公開講座例：「HOP STEP点字」「見えにくさに応じた支援」など)
- 3 関係機関との連携  
医療・福祉・労働機関等との連携をとりながら、ケース会議等でより良い支援の方向を探っています。

見えにくさは一人一人異なり、それに対する適切な手だても様々です。県内で唯一視覚障害教育を行う学校として、その専門性を生かし、それぞれのニーズに応じた支援を行っていきたくと考えています。

(教諭 利守 展子)

## 岡山県立岡山東養護学校

本校の特別支援学校のセンター的機能に関するコーディネーターの役割の中から、次の3つの業務について紹介します。

- 1 相談業務  
支援地域の教職員や保護者の依頼を受けて、学校園に訪問したり、本校に来ていただいたりして、教育相談を実施しています。発達障害のある幼児児童生徒に関する相談が多いのですが、本校は肢体不自由部門と知的障害部門の併設校であり、幅広い障害内容のご相談をお受けしています。
- 2 研修会業務  
保・幼・小・中学校等の教職員を対象に、特別支援教育の普及、及び指導力向上を目的とした「エリア研修会」を定期的の実施しています。  
また、地域住民の方々の障害の理解と啓発を一層促進するために、夏季休業中に、本校でボランティア講座を実施しています。
- 3 派遣講師業務  
学校園での特別支援教育に関する研修会講師だけでなく、公民館や企業などからも依頼を受けて、研修会講師を務めています。

(教諭 田野辺 卓)



〈昨年度の地域住民を対象としたボランティア講座より〉

# 平成19年度 岡山県教育委員会だより

## ～特別支援教育の充実に向けて～

### 特別支援教育の推進を図っています

- 特別支援教育推進プラン(仮称)の策定**  
特別支援学校の児童生徒数の増加、小・中学校、高等学校等における特別支援教育の充実等の課題に対応し、今後の方向性等を示します。
- 特別支援教育サポート事業**
  - 特別支援連携協議会(広域・地域)の設置
  - 巡回相談員の幼稚園・小・中・高等学校等への派遣
  - 専門家チームの設置
  - 巡回相談員・専門家チーム連携会議の開催
  - 巡回相談員連絡協議会の開催(4日間)
- 特別支援教育推進事業**
  - 県立特別支援学校のセンター的機能充実事業・公開講座の実施
  - 高等学校への支援(新規)
    - ・リーフレットの作成・配付
  - 校内支援データベース作成事業(新規)
- 市町村における支援体制の整備**
  - 特別支援教育体制推進事業(文部科学省委嘱事業):津山市, 真庭市, 美作市を地域指定
  - 発達障害早期総合支援モデル事業(文部科学省委嘱事業):笠岡市を地域指定

### 適切な就学の推進を図っています

- 特別支援教育巡回就学相談**  
障害のある子どもの就学について、相談に応じています。  
備前会場 7月24日(火) 備前市市民センター  
笠岡会場 7月26日(木) サンライフ笠岡  
倉敷会場 7月27日(金) ライフパーク倉敷  
高梁会場 8月1日(水) 高梁市文化交流館  
津山会場 8月3日(金) 津山市高野公民館  
岡山会場 8月16日(木) 岡山ふれあいセンター
- 教育相談**  
岡山県総合教育センターや県内の特別支援学校では、障害のある子どもの教育について電話や面接による相談を行っています。

### 進路指導の充実を図っています

- いきいきジョブ支援事業(新規)  
県立特別支援学校中学部3年生を対象として、支援員のサポートのもと、企業における職場体験を実施します。

### 特別支援学校の理解推進を図っています

- 体験入学・学校公開**  
障害のある子どもやその保護者、学校、福祉施設、行政関係者、地域の方々などを対象としています。特別支援教育についての講話を聞いたり、体験的に学習に参加したりできます。

|            |                       |
|------------|-----------------------|
| 岡山盲学校      | 8月8日 ※体験入学は随時         |
| 岡山聾学校      | 6月21日, 8月3日, 10月17日   |
| 岡山養護学校     | 6月18日, 11月22日         |
| 岡山西養護学校    | 6月18日, 11月7日          |
| 岡山東養護学校    | 6月5日, 10月17日          |
| 岡山南養護学校    | 7月3日, 10月16・22・23・26日 |
| 西備養護学校     | 5月29日, 10月4日, 10月9日   |
| 健康の森学園養護学校 | 6月29日, 11月9日          |

|         |  |
|---------|--|
| 東備養護学校  | 7月4日, 11月5・7・8・12日                     |
| 早島養護学校  | 6月26日, 10月20日, 11月7日                   |
| 誕生寺養護学校 | 6月12・13・19・20日,<br>10月9・10日, 11月13・14日 |

◇開催日が学部ごとに違う学校もあるので、詳細は、直接当該校にお問い合わせください。県立以外の学校(倉敷市立倉敷養護学校, 岡山大学教育学部附属特別支援学校)についても当該校へお問い合わせください。

### 2 ところをつなぐ作品展

特別支援学校や特別支援学級の児童生徒の作品を展示します。  
(期日) 10月30日(火)～11月4日(日)  
(会場) 天神山文化ホール

### 特別支援学校の体制整備を図っています

特別支援学校の施設設備の充実や医療体制整備を進めます。  
○誕生寺養護学校校舎等整備  
○特別支援学校(肢体不自由部門)における医療的ケアの実施(看護師配置の充実, 医療的ケア充実事業(新規))

### お知らせ

- 「発達障害」の用語の使用について  
次に平成19年3月15日付文部科学省初等中等教育局特別支援教育課からの文書をお示しします。

今般、当課においては、これまでの「LD, ADHD, 高機能自閉症等」との表記について、国民のわかりやすさや、他府庁との連携のしやすさ等の理由から、下記のとおり整理した上で、発達障害者支援法の定義による「発達障害」との表記に換えることとしましたのでお知らせします。

#### 記

- 今後、当課の文書で使用する用語については、原則として「発達障害」と表記する。  
また、その用語の示す障害の範囲は、発達障害者支援法の定義による。
- 上記1の「発達障害」の範囲は、以前から「LD, ADHD, 高機能自閉症等」と表現していた障害の範囲と比較すると、高機能のみならず自閉症全般を含むなどより広いものとなるが、高機能以外の自閉症者については、以前から、また今後とも特別支援教育の対象であることに変化はない。
- 上記により「発達障害」のある幼児児童生徒は、通常の学級以外にも在籍することとなるが、当該幼児児童生徒が、どの学校種、学級に就学すべきかについては、法令に基づき適切に判断されるべきものである。
- 「軽度発達障害」の表記は、その意味する範囲が必ずしも明確ではないこと等の理由から、今後当課においては原則として使用しない。
- 学術的な発達障害と行政政策上の発達障害とは一致しない。また、調査の対象など正確さが求められる場合には、必要に応じて障害種を列記することなどを妨げるものではない。

今後、県教育委員会では、「発達障害」の用語を使用していきます。

### ◇◇特別支援教育室のホームページ◇◇

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/tokubetu/>  
※特別支援教育に関する最新の情報を掲載しています。

# 教育相談の御案内

カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーションの‘3C’を大切にしています

岡山県総合教育センター特別支援教育部では、教育や養育に支援の必要な子どもについての面接相談や電話相談を行っています。面接相談は、保護者のみの面接、保護者と子どもの親子並行面接、先生が子どもや保護者と一緒に来所しての相談、先生へのコンサルテーションなど、様々な形態で行うことができます。また、支援に生かすために保護者の同意の下で知能検査や発達検査を行うこともできます。さらに、相談内容や御希望に応じて教育・医療機関等の紹介もしています。

電話相談は、教育相談の専用電話を設置しています。専用電話は、面接相談の予約等にも御利用いただけます。お気軽に御利用ください。

特別支援教育では、一人一人のニーズに応じた教

育を進めていくことが必要であり、個別の指導計画、個別の教育支援計画等に基づいた細かな取り組みが求められています。県総合教育センター特別支援教育部では、先生方の担当している子どもの理解や授業支援のために、これらの指導計画等の相談や授業づくり、学習指導案作成、教材に関する相談にもお応えしています。また、校内研修等の際、必要な場合は、WISC-Ⅲの検査器具の貸し出し（貸し出しに関する詳細については、連絡をいただいた際にお知らせいたします）も行っています。さらに、校内における障害についての理解啓発や特別支援教育に関する校内研修についても相談に応じています。

## <特別支援教育部相談専用電話>

0866-56-9117

### ☆電話相談

月・水・木・金曜日(9:00～17:00)

火曜日 (13:00～17:00)

※土・日・祝・振替休日はお休みです。

### ☆面接相談（予約が必要です）

月・水・木・金曜日(9:00～19:00)

火曜日 (13:00～19:00)

第2・第4土曜日(長期休業中を除く)  
(9:00～17:00)

※1回の面接時間は約50分です。

※第2、第4土曜日は、登校していて平日に  
来所ににくい児童生徒の相談を優先します。

### ☆医師による教育相談（予約が必要です）

毎月第4水曜日 (16:00～18:00)

## 昨年度の面接相談から

平成18年度は、延べ973回(前年度827回)の面接相談を実施しました。前年度と同様に、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害児への継続的な支援を行うとともに、学校への継続的なコンサルテーションも行ってきました。

校種別では小学校が全体の約8割を占め、次いで中学校、就学前の順となっています。

主訴別に見ると、集団適応に関する相談が最も多く、次いで、生活、学習に関する相談が多くありました。

県総合教育センターでは、保護者へのカウンセリングを行って悩みを傾聴し、共感的理解に努めたり、教職員へのコンサルテーションを実施して子ども理解や支援について共に考えたりしました。

また、心理・発達検査によるアセスメントを支援に生かして家庭や学校と連携したり、遊びや物作りを通して、子どもの心理的安定やスキルの習得を図ったりもしました。

# インフォメーション

## 研修講座



以下の講座は岡山県総合教育センターが主催する研修講座です。Webで2週間前までに申し込んでください。多くの皆様の受講をお待ちしています。

詳しくは各学校にお配りしています「平成19年度岡山県総合教育センター案内」を御覧ください。

### ○希望研修

1日のみでも受講可能です。

#### ☆「重度・重複障害児の理解と支援研修講座」

7月30日(月)

#### ☆「自閉症児の理解と支援研修講座」

7月26日(木)、8月23日(木)

#### ☆「特別支援教育授業づくり研修講座」

8月7日(火)、8月21日(火)

#### ☆「特別支援教育教育相談研修講座」

8月22日(水)、8月28日(火)

#### ☆「発達障害(LD, ADHD, 高機能自閉症等)児の理解と支援研修講座」

8月6日(月)、8月24日(金)

#### ☆「心理教育的アセスメント演習講座」

6月26日(火)、7月10日(火)

※同じ内容の講座なので、どちらか一日のみを選択。

#### ☆「特別支援教育基礎研修講座」

7月27日(金)

### ○悉皆・担当者研修

#### ☆「特別支援学級等新任担当教員研修講座」

(対象) 初めて小・中学校の特別支援学級を担当する教諭及び初めて通級指導教室を担当する教諭(岡山市, 倉敷市を除く)

5月22日(火), 6月19日(火), 8月8日(水)  
の3日間(継続研修)

#### ☆「特別支援学級担当教員研修講座」

(対象) 小・中学校特別支援学級担当教員

8月16日(木) 全体会  
10月17日(水) 備前  
10月4日(木) 備前  
10月10日(水) 備前  
10月12日(金) 美作

#### ☆「特別支援教育新任コーディネーター研修講座」

(対象) 初めて特別支援教育コーディネーターに指名された小・中学校, 特別支援学校教員等(岡山市, 倉敷市を除く)

5月21日(月), 7月17日(火),  
8月20日(月), 11月21日(水)  
の4日間(継続研修)

#### ☆「巡回相談員連絡協議会」

(対象) 小・中学校特別支援学級教諭, 通級指導教室担当教諭及び特別支援学校教諭等からなる巡回相談員(岡山市, 倉敷市を除く)

6月14日(木), 7月23日(月),  
10月16日(火), 12月6日(木)  
の4日間(継続研修)

#### ☆「特別支援教育教育課程研究協議会(予定)」

11月12日(月): 特別支援学校  
11月14日(水): 小・中学校特別支援学級

#### ☆「発達障害研修講座(幼稚園)」

8月29日(水): 幼稚園長, 教員等

#### ☆「発達障害研修講座(高等学校)」

7月20日(金): 公立高等学校生徒指導担当  
教育相談担当教員等

## 図書資料



昨年度, 新しく購入した図書を紹介します。校内研修等にお役立てください。メディアセンターにあり, 閲覧できます。

☆「ふしぎだね!?アスペルガー症候群のおともだち 発達と障害を考える本2」内山登紀夫 ミネルヴァ書房

☆「軽度発達障害のある子のライフサイクルに合わせた理解と対応」田中康雄 学研

☆「LD I-LD判断のための調査票-手引」上野一彦 他 日本文化科学社

☆「特別支援教育の学習指導案づくり」宮崎直男 明治図書

☆「通常学級にいる気になる子への支援」干川隆 明治図書

R100

古紙配給率100%再生紙を使用しています

No. 28

[平成20年6月]

岡山県総合教育センター

〒716-1241

加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL (代) (0866) 56-9101

(特別支援教育部) (0866) 56-9106

〈特別支援教育部相談専用電話〉

TEL (0866) 56-9117

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>



## 岡山県における特別支援教育の展望

岡山県総合教育センター

特別支援教育部長 竹村 英一

障害のある児童生徒等の教育の一層の充実を図ることを目的に、平成19年4月1日に改正学校教育法が施行されました。これにより、「盲学校・聾学校・養護学校」から「特別支援学校」へ名称が変更され、特別支援学校において、幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の要請に応じて、教育上特別の支援を必要とする幼児児童生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努めること、そして幼稚園・小学校・中学校・高等学校等において、教育上特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対し、障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うことが明確に示されました。

岡山県教育委員会では国の動向を受け、平成20年度教育行政重点施策として、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」と並んで「特別支援教育の推進」（高等特別支援学校の整備他）を三つの柱の一つとしています。また、平成20年3月には岡山県特別支援教育推進委員会より、「岡山県における特別支援教育の在り方について（報告）」が出され、校内体制の整備、発達障害のある幼児児童生徒への支援等、特別支援教育の充実について様々な提言がなされました。

いずれにしても、特別支援教育を推進・充実するためには、特別支援教育や発達障害について教職員が理解を深め、適切な指導・支援ができるよう力量を高めることが不可欠です。

岡山県総合教育センター特別支援教育部では、各学校における特別支援教育の充実に向け、研修講座、教育相談、学校支援を核として、学校や教職員のニーズや課題に応じた支援を組織的に推進したいと考えています。

研修講座では、特別支援教育に関する基礎的、普遍的

内容に加えて、今日的な課題やスキルアップに対応した内容を充実させるとともに、演習やグループ協議等、研修形態の工夫を行い、実践力の向上を支援します。

また、教育相談では、来談者に対して、幼児児童生徒や保護者の抱えている困難さについて理解しながらカウンセリングを行うとともに、コンサルテーションの一層の充実を図り、一人一人に応じた支援について共に考えていきます。

学校支援においては、校内研究や授業づくり等についての相談に応じるカリキュラムサポート、出前講座とニーズに応じた研修を行うサポートキャラバン、学校に対して障害のある児童生徒一人一人に応じた、より有効な校内支援体制を整備することを目的とした学校コンサルテーションを柱に支援を展開していきます。

以上のように様々な方向から支援を行う中で、今年度は特に高等学校の支援を進めていきたいと考えています。

この「特別支援教育つうしん」では、特別支援学校の取り組みや小・中学校の特別支援学級や通級指導教室での取り組みを紹介し、地域の小・中学校と特別支援学校とのつながりを深めることができるようにしていくとともに、幼稚園・高等学校の状況も踏まえて特別支援教育の充実に向けて必要な情報を提供していきたいと考えています。

今後益々の特別支援教育の推進と、障害のある幼児児童生徒の理解と支援の充実に努めて参りたいと考えておりますので、一層の御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

# ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり

## 津山市立秀実小学校 〈小学校通常学級の実践〉

研究主題「支援の必要な子どもの目線に立ったわかりやすい授業づくり」  
～ 算数科の指導を通して～

### 1 はじめに

法律の改正により、平成19年度から通常学級においての特別支援教育が義務付けられました。本校では、きめ細かな指導ができるという小規模校の特色を生かし、特別支援学級はもとより、特に通常学級における支援を必要とする児童に視点を当てた授業づくりを平成19年度の校内研究の中心としました。

### 2 研究の内容

#### (1) 理論研修

研究を進めるに当たって、岡山県立誕生寺養護学校の山岡先生（5月）、県総合教育センターの片岡指導主事（8月）を招聘し、法律改正の概要及び、特別支援教育の理論、支援を要する児童への算数科における具体的な対応策等について研修を受け、授業実践につなげていきました。

#### (2) 授業実践

主題に迫るために「特別支援を必要とする児童の実態を把握し、支援体制や指導方法を工夫することにより、どの子にもわかりやすい授業が展開できる」という研究仮説を立て、次のような具体的方策を工夫することを共通理解して全員が研究授業に取り組みました。

- ① 児童の実態を把握する
- ② 学習課題を明確にして、学習の見通しを持たせる
- ③ 個に応じた学習活動や教具の工夫
- ④ 児童のつまづきを把握して、次時の指導に生かす



#### 【2年生「かけ算(1)」の実践例】

**課題解決の見通しを持たせるために**、「かけ算の意味（同じ数がいくつ分）のカード」を黑板横に掲示しておき、前時の復習をしました。問題場面の絵は、教科書の挿し絵を拡大コピーし、提示することで、課題解決場面を分かりやすくしました。その結果、児童は興味・見通しを持って取り組むことができました。

**個に応じた学習活動を展開するために**、支援が必要な児童にも分かるように、考えの手順を示したワークシートを使用しました。また、黑板にも拡大したワークシートを掲示し、児童の発表を基に書き込み、支援の必要な児童の理解の助けとしました。場面を焦点化するために、指マークのついた指示棒を使用し、児童が集中して黑板を注視することができました。

自分の考えを発表する場面では、どの児童にも同じパターンで発表させ、発表の仕方に困っている児童も発表できるようにしました。

### 3 成果と課題

支援を必要とする児童の手立てが、全ての児童にも理解を深める上で効果的でした。また、理論研修や授業研究を通して、通常学級における特別支援を必要とする児童や他の児童への効果的な指導法が徐々に明らかになり、そのことが本校の授業改善にもつながりました。

しかしながら、算数科としての授業研究を深めることができたのかという反省も残り、さらなる研究を深める必要があると考えています。

（教諭 中谷 淳子）

# 特別支援教育コーディネーターの役割

今回は「特別支援教育コーディネーターの役割」というテーマで、3校の特別支援学校に取り組みを書いていただきました。各校の様々な取り組みの中から、代表的なものをピックアップして紹介していただいています。

## 岡山県立岡山西養護学校

本校は、平成18年度までは在籍している児童生徒数が300名を超え、過密で空間にゆとりがほとんどない状態の学校でした。平成19年度に岡山南養護学校と分離して約半数の児童生徒数になり、施設のにも少しゆとりができ、念願だった特別支援室が整備されました。

支援室は発達検査や知能検査を実施するコーナー、教育相談を行うコーナー、児童生徒と遊びながら様子を観察するコーナー、自立活動の抽出指導等、様々な指導に使用するコーナーの大きく4つに分かれています。また、様々な教材・教具を日頃の指導に活用しやすいように整理しています。その他に、指導の参考になればと資料・図書の書籍なども支援室入り口に紹介コーナーを設置し、常に新しい情報を発信するようにしています。

本校にはコーディネーターが3人おり、センター的役割を推進していくため、教育相談、研修会の講師、各種アセスメントの実施、情報提供（公開講座、教材の紹介等）、他機関の紹介等、様々な活動に取り組んでいます。

特別支援学校のコーディネーターの役割としては、本校で全てが解決しなくても解決に向けての糸口を得ることができる場所にあることだと考え、必要な人に必要な情報を必要な時に提供できるように、常にアンテナを張りめぐらせて、情報を収集するようにしています。機会がありましたらぜひ一度岡山西養護学校の特別支援室においでください。

(教諭 三宅 美穂)



## 岡山県立東備養護学校

特別支援学校としてのセンター的機能に関する本校の取り組みについて、紹介します。

### 1 相談業務

支援地域の教職員や保護者からの電話相談・来校相談を受け付けています。

### 2 巡回相談業務

本校コーディネーターは岡山県巡回相談事業の巡回相談員を兼ねており、地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校からの要請に応じて、巡回相談を行ったり研修講師として出向いたりしています。また、備前地域の事務局として、相談の調整を行う他、専門家チーム・巡回相談員連携会議を開いて、地域の巡回相談員とも連携を図っています。

### 3 特別支援教育ネットワークの構築

平成17年度より備前・和気、赤磐市、瀬戸内市の3地区について、特別支援教育ネットワークを立ち上げました。就学前、就学中、卒業後のそれぞれのライフステージごとに、学校園だけでなく、行政機関・福祉・医療機関の参加を得て支援を行っています。まだ、数例ですが、地域で起こった問題を、必要な関係機関が集まってケース会を行うなどの連携した取り組みを通して改善に導くことができたという例もあります。

このネットワーク共催という形で年4回の公開講座を開いています。学校関係者の他、保護者・福祉関係者・行政関係者など様々な立場の方が毎年多数参加して下さっており、特別支援教育の広がりを感じます。また、本校主催のコーディネーター講座も実施を予定しています。今後とも、地域の方と手を取り合って、特別支援教育を進めていきたいと思っております。

(教諭 富谷 えり)



(公開講座の様子)



# 倉敷市立倉敷養護学校

本校は、倉敷市に位置している県内唯一の市立特別支援学校です。平成16年度より、特別支援教育コーディネーターが配置され、校内外に向けて支援活動をしています。ここでは、その中の一つ、倉敷市特別支援教育推進プロジェクトの一環である地区相談業務について紹介します。

倉敷市には、特別支援教育専門家派遣事業として、医師・大学教員などの専門家スタッフや指導課専任スタッフによる巡回相談と並行して、特別支援学校教員による地区相談業務があります。倉敷養護学校への要請を受けて、地区相談員が依頼のあった学校園を訪問し、教育的支援の状況を見させていただいた上で、具体的な指導法についての助言をしたり、参考のために教材を提示したりしています。

昨年度は小学部・中学部各2名ずつが地区相談の業務に当たり、各校でのケース会に参加したり、倉敷養護学校で使用している教材や個別課題の取り組み方について紹介したり、進路について助言をしたりしました。

本年度はこの地区相談業務を、小学部・中学部・高等部のコーディネーターが受け持つことになりました。訪問先の先生方と共に考え、共に勉強しながら、市内学校園における特別支援教育の更なる充実に向けて、お手伝いできれば幸いです。（教諭 西原 理恵）



## ひらかれた学級・教室

# 高梁市立川面小学校

本校は全校児童66名の小規模校で、特別支援学級の在籍児童は今年度は1名になりました。その年々の具体的な運営や支援の仕方は異なりますが、児童の実態等に応じて『よさを認め、伸ばす』という基本方針を基に、子どもたちにとって心のよりどころとなるような学級経営を心がけています。

子どもたちは皆「友だちともっと仲良くなりたい」という願いを持っており、高学年になればその思いは更に強くなります。そこで、子どもたちの願いを実現していくために、教科学習だけでなくソーシャルスキルの学習を通して友だちとのかかわり方を学び、集団の中で自信を持って振る舞うことができるように支援をしています。同時に、交流学級にも出向き、子どもたち同士の気持ちをつなぐための配慮も欠かせません。

学級の児童は、月に一回は、交流学級の子どもたちに「頑張って」「行ってらっしゃい」と温かく送られて、学区内の幼稚園で絵本の読み語りをを行い、園児の喜ぶ顔に満足感や達成感を存分に味わっています。また、進学先となる中学校の特別支援学級の生徒たちとは、担任が開設したブログ「C組よいとこ」でのやりとりを通して情報交換を行い、中学校生活への夢を膨らませています。

これからも、生活しやすく学びやすい状況をつくることに努め、その中で子どもたちが伸び伸びと活動し、自己有用感を高めていくことができるような取り組みを進めていきたいと思ひます。

（教諭 竹井 節子）



# 津山市立久米中学校

本校は、生徒数182名、学級数8の学校です。特別支援学級は2学級で、知的障害特別支援学級（大空）2名、情緒障害特別支援学級（友愛）4名の生徒が学んでいます。昨年度、新設された知的障害特別支援学級の担任として試行錯誤の1年でしたが、2学級合同での学習や両学級の担任が連携をとりながらの指導を行ってきました。生徒たちはコミュニケーションが一方的になりがちな面や集中して作業に取り組むことが苦手な面が見られました。そこで「相手と相談をしながら協力して、みんなで一つのを完成させる」ことに取り組むことができるように、調理や作業的活動を取り入れました。活動に当たってはできるだけペアで一つの作業を分担するようにしました。春は校庭の土手で土筆や蓬を摘み、天ぷら・草もちを作り好評でした。秋は学級園で育てた野菜を使って様々な料理に挑戦しました。また手打ちうどんの店を開きました。うどんが出来上がると、開店する旨を職員室に知らせに行き、レジでは代金を受け取りました。お客様に、自分が担当した作業内容を説明したり、食べた感想を尋ねたりして、自分の思いを周りの人に伝えることができ、満足感を味わっていました。

3学期には、津山市内小・中学校の特別支援学級による「きらきら作品展」に出品しました。作品づくりの際には、地域の方による絵手紙の指導の中で、自分から質問する場面も見られました。作品展当日は、学区交流会を持ち小学生と一緒に電車に乗って見学に出かけました。昼食の時には自己紹介や感想を発表して、楽しく半日を過ごすことができました。今後も様々な場面で人とのつながりを深めていく体験ができるようにしていきたいと思えます。

（教諭 光延 悦子）



# 岡山市立石井中学校 〈通級指導教室〉

本教室は、昨年度（平成19年度）に新設された通級指導教室です。2年目の今年度は、1年生5名、2年生3名、3年生2名の計10名が毎週1回（50～100分）石井中学校に通ってきています。

本教室では、学校生活の様々な場面で適応できにくい生徒に対して、生き生きとした楽しい学校生活を送ることができるようそれぞれの生徒の特性に応じた指導を行っています。そのため、通級指導教室は、自分を理解してくれる「ほっとする場」であり、苦手なことも「やってみよう」と思え、頑張ったから「できた」、やってみたら「楽しい」と思える教室を目指しています。

昨年度は、個別指導中心で行い、必ず一つは自分で学習課題を決め取り組みました。「ここまでは頑張る！」と自分で自分を励ます姿を見ることができました。また、在学校でのしんどさを抱えたまま教室に入ってきた生徒には、話を聞くことしかできず一緒に悩んでいました。生徒たちのあるがままを受け止め、保護者や担任の先生と情報交換しながら「通級指導教室でできることは？」と考える毎日でした。

保護者や教員など多くの方々の長年の願いで新設された中学校の通級指導教室です。思春期を迎えた生徒たちの個々のニーズに応えつつ、中学校通級指導教室の在り方を考えながらこれからも日々取り組んでいきたいと思っています。（教諭 藤本 直子）



# 高等学校における特別支援教育

平成19年4月1日付けで、文部科学省初等中等教育局から「特別支援教育の推進について（通知）」が出されました。この通知には、特別支援教育が法的に位置付けられた改正学校教育法が施行されるに当たって、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校において行われる特別支援教育についての基本的な考え方、留意事項等がまとめて示されています。言わば、特別支援教育元年に当たって、文部科学省が示した所信表明であると言えます。その冒頭の「特別支援教育の理念」として示された内容に、次のような文があります。「特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。」つまり、特別支援教育は、子どもたちのニーズに応じて、学校種、学級種を問わず、すべての学校で行われるということを明確にしているわけです。

さて、岡山県の特別支援教育体制の整備状況を見ると、平成19年度の特別支援教育コーディネーターの指名率が、小学校では100パーセント、中学校では99.4パーセント、そして高等学校では21.4パーセントとなっています。これを見ると、高等学校の指名率が他校種のそれと比較して低いことが分かります。これは全国的な傾向だと思われませんが、高等学校の全国平均指名率が46.8パーセントであることと比べ、決して高いとは言えない状況です。特別支援教育コーディネーターは、校内で、特別支援教育を中心となって推進していく役割を担っています。その指名率が低いということは、高等学校における特別支援教育のより一層の推進が喫緊の課題であると言えます。

そこで、岡山県総合教育センターでは、平成19・20年度の共同研究として「青年期における発達障害のある生徒の支援に関する研究」というテーマを設定し、研究に取り組んでいるところです。県内の高等学校の先生方にも加わっていただき、本人支援、学校支援、保護者支援という三つの柱で、高等学校の協力を得ながら、現場に還元できる研究を目指して取り組んでいきたいと考えています。

また、岡山県教育庁指導課特別支援教育室からは、「高等学校における発達障害のある生徒の理解と支援のために」というパンフレットが配布されており、Webページからもダウンロードできます。「発達障害のある生徒の状況」「発達障害のある生徒への教育的支援」「校内支援組織の確立と関係機関との連携」「資料」という四つの柱で構成されています。支援の具体例も掲載されており、読みやすい紙面構成になっています。参考にさせていただけたらと思います。

当総合教育センターにおける研修や教育相談、コンサルテーションの中では、例えば、生徒の障害受容や自己理解を進めるための支援、生徒のキレに対する理解（生徒の気持ちに寄り添い、その適切な表現方法を共に考える）や支援、また、生徒の認知方法に応じた授業づくりや教材教具の工夫等が課題であるという先生方の声が聞かれます。

こうした課題に向けての取り組みが進むことによって、高等学校における特別支援教育は、今後ますます充実していくことが期待されます。当総合教育センターでは、そのお手伝いができるように、これからも、特別支援教育に関する情報の発信、先生方へのコンサルテーション等を行っていききたいと思っています。

平成20年度

# 岡山県教育委員会だより

～特別支援教育の充実に向けて～

## 特別支援教育の推進を図ります

### 1 特別支援教育推進プランの策定

岡山県特別支援教育推進検討委員会から提出された報告を踏まえ、今後の本県における特別支援教育体制の整備や小・中・高等学校等における特別支援教育推進の方向性等を示します。

### 2 県巡回相談事業

- 特別支援連携協議会（広域・地域）の設置
- 巡回相談員の幼稚園・小・中・高等学校等への派遣
- 専門家チームの設置及び派遣
- スーパーサポートチームの設置及び派遣
- 巡回相談員・専門家チーム連携会議の開催
- スーパーサポートチーム・巡回相談員連絡協議会の開催

### 3 高等学校における発達障害支援推進事業

- 発達障害支援連絡協議会の開催（年2回）
- 外部専門家と連携したケース会議や研修等の実施
- 県外先進校への派遣、特別支援学校での研修

### 4 特別支援教育推進事業

- 県立特別支援学校のセンター的機能支援事業・公開講座の実施
  - 校内支援データベース事業
- ### 5 市町村における支援体制の整備
- 発達障害等地域支援体制整備事業（委託事業）
    - ・地域巡回相談員の配置及び巡回相談の実施
  - 発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業（文部科学省委嘱事業）：全県を指定
  - 発達障害早期総合支援モデル事業（文部科学省委嘱事業）：笠岡市を地域指定

## 適切な就学の推進を図っています

### 1 特別支援教育巡回就学相談

障害のある子どもの就学について、相談に応じています。

- 新見会場 7月25日（金）新見市保健福祉センター
- 真庭会場 7月30日（水）真庭市久世公民館
- 岡山会場 8月1日（金）岡山市灘崎町民会館
- 赤磐会場 8月4日（月）赤磐市熊山公民館
- 井原会場 8月7日（木）アクティブライフ井原
- 津山会場 8月8日（金）津山市高野公民館
- 倉敷会場 8月12日（火）ライフパーク倉敷

### 2 教育相談

岡山県総合教育センターや県内の特別支援学校では、障害のある子どもの教育について電話や面接による相談を行っています。

## 進路指導の充実を図っています

### 1 特別支援学校職業自立推進事業（新規）

- ジョブ支援員活用事業  
県立特別支援学校中学部3年生～高等部1年生を対象として、「ジョブ支援員」のサポートのもと、企業における職場体験を実施します。
- 就業支援アドバイザー配置事業  
企業における障害者雇用の担当経験者等を「就業支援アドバイザー」として配置します。
- 高等部作業学習プログラム開発事業  
雇用状況の変化、就業による職業自立を目指す生

徒のニーズに応じ、作業学習における指導プログラムや作業種の開発を図ります。

## 特別支援学校の理解推進を図っています

### 1 体験入学・学校公開

障害のある子どもやその保護者、学校、福祉施設、行政関係者、地域の方々などを対象としています。特別支援教育についての講話を聞いたり、体験的に学習に参加したりできます。

|            |  |
|------------|--|
| 岡山盲学校      | 7月24日 ※体験入学は随時                         |
| 岡山聾学校      | 6月24日、8月6日、10月28日                      |
| 岡山養護学校     | 6月23日、10月21日                           |
| 岡山西養護学校    | 6月17日、11月11日                           |
| 岡山東養護学校    | 6月3日、10月21日                            |
| 岡山南養護学校    | 6月25日、7月1日、10月8・15・17日                 |
| 西備養護学校     | 5月27日、10月2・21日                         |
| 健康の森学園養護学校 | 6月12日、10月30日                           |
| 東備養護学校     | 7月4日、11月4・5・6・7日                       |
| 早島養護学校     | 6月24日、10月11日、11月5日                     |
| 誕生寺養護学校    | 6月10・11・24・25日、<br>10月14・15日、11月11・12日 |

◇開催日が学部ごとに違う学校もあるので、詳細は、直接当該校にお問い合わせください。県立以外の学校（倉敷市立倉敷養護学校、岡山大学教育学部附属特別支援学校）についても当該校へお問い合わせください。

### 2 発達障害児支援フォーラムの開催

発達障害支援にかかわる講演とパネルディスカッションを行います。

（期日）平成21年1月17日（土）

（会場）岡山県総合福祉会館

## 特別支援学校の体制整備を図っています

特別支援学校の施設設備の充実や医療体制整備を進めます。

- 岡山地域新設高等特別支援学校（仮称）開校準備（平成21年度開校予定）
- 倉敷地域新設高等特別支援学校（仮称）開校準備（平成22年度開校予定）
- 誕生寺養護学校校舎等の改築・改修
- 特別支援学校（肢体不自由部門）における医療的ケアの実施（看護師配置の充実、医療的ケア充実事業（医療的ケア運営協議会、看護師等連絡協議会の開催））

## お知らせ

◇◇特別支援教育室のホームページ◇◇

[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=147](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=147)

をご覧ください。

※特別支援教育に関する最新の情報を掲載しています。

## ◇掲載情報

- 岡山地域新設高等特別支援学校（仮称）について
- 発達障害等支援事業について
- 校内支援データベース
- 高等学校における発達障害のある生徒の理解と支援のために（ダウンロード可）
- 適切な就学を行うために（ダウンロード可）等

# インフォメーション

## 教育相談の御案内

岡山県総合教育センター特別支援教育部では、教育や養育に支援の必要な子どもについての面接相談や電話相談を行っています。

面接相談は、保護者のみの面接、保護者と子どもの親子並行面接、先生が子どもや保護者と一緒に来所しての相談、先生へのコンサルテーションなど、様々な形態で行うことができます。また、当総合教育センターでの面接相談をより効果的に継続するために、保護者の同意の下で知能検査や発達検査を行うこともできます。さらに、相談内容や御希望に応じて教育・医療機関等の紹介もしています。

電話相談は、教育相談の専用電話を設置しています。専用電話は、面接相談の予約等にも御利用いただけます。お気軽に御利用ください。

### <特別支援教育部相談専用電話>

0866-56-9117

## サポートキャラバンの御案内

岡山県総合教育センターの事業の一つである「学校力向上サポートキャラバン事業」では、当センターの指導主事が、公立小・中・高・特別支援学校の校内研修会や、市町村教育委員会が主催する地域ごとの研修会等に伺います。

特別支援教育部では、①特別支援教育の動向と校内支援、②発達障害児の理解と支援について出前講座を行います。出前講座以外にも、市町村教育委員会や各学校の要望に応じた内容に、可能な限り対応します。

※サポートキャラバン、学校コンサルテーションの手続きや書式について、また、研修講座については、Webページを御覧ください。

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

### ☆電話相談

月・水・木・金曜日(9:00～17:00)

火曜日 (13:00～17:00)

※土・日・祝・振替休日はお休みです。

### ☆面接相談(予約が必要です)

月・水・木・金曜日(9:00～19:00)

火曜日 (13:00～19:00)

第2・第4土曜日(長期休業中を除く)  
(9:00～17:00)

※1回の面接時間は約50分です。

※第2、第4土曜日は、登校していて平日に来所しにくい児童生徒の相談を優先します。

### ☆医師による教育相談(予約が必要です)

毎月第4水曜日 (16:00～18:00)

## 学校コンサルテーションの御案内

いじめ、不登校、学級の荒れ、問題行動等生徒指導上の様々な問題や、障害のある児童生徒一人一人に応じた支援などについて、より有効な校内支援体制が整備されるよう、各学校(公立小・中・高・特)の先生方を支援します。

具体的には、学校での指導・支援の在り方、関係機関との連携等について先生方と協議しながら共に考えていきます。



No. 29  
[平成 21 年 4 月 30 日]  
岡山県総合教育センター  
〒716-1241  
加賀郡吉備中央町吉川 7545-11  
TEL(代) (0866)56-9101  
(特別支援教育部)(0866)56-9106  
(特別支援教育部相談専用電話)  
TEL (0866)56-9117  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>



## 特別支援教育つうしんがWeb発信になりました！

岡山県総合教育センター

特別支援教育部長 竹村 英一

「特殊教育」から「特別支援教育」への転換がなされて3度めの春を迎えました。各学校の先生方におかれましては、日々の教育実践において特別支援教育の推進にご尽力いただき、深く感謝をいたします。

特別支援教育部では、今年度も、研修講座・教育相談・学校支援（出前講座等）を3つの柱として、学校力・教師力向上につながる特別支援教育を推進してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、当センターでは特別支援教育の充実を図るために、旧教育センター時代の平成2年度より、「障害児教育つうしん」を、平成18年度からは「特別支援教育つうしん」と名称変更して、昨年度まで通算28号発行してまいりましたが、今年度からはスピーディーな情報提供を行うため、Webでの発信となりました。内容的にも、これまでとは大きく変わりますが、実践に役立つ情報を、年間10回の発信を目指してお届けいたしたいと考えております。これまでの「特別支援教育つうしん」同様、ご活用いただければ幸いです。

### 学校支援の拠点をめざす特別支援教育部の取組み

～スピード感をもって学校のニーズや課題に応じた支援を行います～

#### 届けます

指導主事の研究成果や収集した情報を、Webページに提供したり研修講座で紹介したりして、積極的に情報を発信します。

#### 出かけます

学力向上サポートキャラバン事業や学校コンサルテーション事業を通して直接学校に向きます。昨年度は21回伺い、研修会の講師や研究会の指導助言者として特別支援教育の推進について共に考える機会を与えていただきました。

また、学校コンサルテーションでは小学校5校に対して、特別な支援を必要とする児童へのチームとしての校内支援体制のあり方について意見交換いたしました。今年度も、可能な限り出かけます。

#### 支援します

先生方に対して、児童生徒の指導や学級経営等のご相談に応じます。電話と来所による方法があります。☎0866-56-9106までご相談ください。

#### 提案します

昨年度は「高等学校における発達障害のある生徒への支援」を研究としてまとめました。今年度も、特別支援教育の推進についての具体的な提案を心がけます。



## センターとくとく情報

～メディアセンター編～

岡山県総合教育センターには、メディアセンターが設置されており、教育に関するあらゆるメディア（図書、研究資料、コンピューターソフト、ビデオ、DVD、VOD等）を取り揃え、先生方の利用をお待ちしています。

### 雑誌ブラウジングコーナー

このコーナーでは最新の教育雑誌が閲覧できます。

平成21年度に定期購読している特別支援教育関係の雑誌は・・・

| 書名       | 出版社名    | 刊行 |
|----------|---------|----|
| 特別支援教育   | 東洋館出版   | 季刊 |
| 特別支援教育研究 | 日本文化科学社 | 月刊 |
| 実践障害児教育  | 学習研究社   | 月刊 |
| LD&ADHD  | 明治図書    | 季刊 |



### DVD・ビデオ視聴コーナー

授業で活用できるDVD・ビデオが視聴できます。

平成20年度に購入した特別支援教育関係のDVD・ビデオ教材は・・・

- LD・ADHD・高機能自閉症等の支援VOL1～気づきと理解～
  - LD・ADHD・高機能自閉症等の支援VOL2～ソーシャルスキルトレーニング～
- ※ コピー機もあります。(有料)

## 実践特別支援教育

### 『羽根つきが教えてくれたこと』



情緒障害特別支援学級を初めて受けもったときのことです。6人という小集団なのに、「子どもたちが同じ遊びをやらうとしない」「やってもケンカになる」「楽しさを共有できない」ことが繰り返されていました。その頃「特別支援学級等新任担当教員研修講座」で、たくさんの遊具を紹介していただきました。「羽根つき」もその一つです。

さっそく子どもたちを図工室に連れて行き、埋もれている板を糸のこで切ってラケットらしき物を作りました。羽はバドミントンクラブで使えなくなった物。半信半疑で始めた羽根つきですが、子どもたちはラリーが続くことが分かると何度も相手をしてほしいと言って来るようになり、50回以上続く子も現れるようになりました。当然興味をもつ子も増え、次第に子ども同士で楽しむ姿が見られるようになりました。もちろんケンカはありますが「もっとやさしく打ってよ」「ごめん」など、いろいろな声をかけあって楽しんでいます。下級生から「かわって」と言われ、本当は替わりたくないのに「あと3回やったら、いいよ」と言えた子の顔も、どこか満足そうです。隣のクラスの子が「先生貸してください」と言って来るなど貸し出しをするまでになった「羽根つき」は、明らかに子どもたちの関係性を広げ、コミュニケーションを深めるためのツールとなったのです。

コスト0円のツールでも、すばらしい遊具兼学習道具になることに気付かされた私は、「どんな子どもだって、楽しさを共有して一緒に遊ぶことができる！」と思えるようになりました。さらに「すげえなあ」「さすがあ」「〇〇ちゃん、かわって」など自ら肯定的なつぶやきをする児童に「今のセリフ、よく言えたね～」と言葉を掛けている自分の存在に気付きました。たくさんのことを教えてくれた羽根つき。・・・案外、身の回りに有効なツールがあるかもしれませんね。(指導主事の実践より)



No.30  
 [平成21年5月27日]  
 岡山県総合教育センター  
 〒716-1241  
 加賀郡吉備中央町吉川 7545-11  
 TEL(代) (0866)56-9101  
 (特別支援教育部)(0866)56-9106  
 <特別支援教育部相談専用電話>  
 TEL (0866)56-9117  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>

## 岡山県特別支援教育推進プランとセンター業務

平成20年3月に「岡山県特別支援教育推進検討委員会」により、「岡山県における特別支援教育推進の在り方について」(報告)が取りまとめられました。岡山県教育委員会では、この報告の趣旨を踏まえ、障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加の実現に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行うため、本県における特別支援教育の推進に関する基本計画として、「岡山県特別支援教育推進プラン」を平成21年3月23日付で策定しました。

推進プランには、「特別支援学校の教育」及び「小学校、中学校、高等学校等における特別支援教育」に関する現状及び課題と、今後5年間(平成21~25年度)を見通した課題解決のための基本的な考え方が示されています。その中には、学校に期待される今後の役割・取組や平成25年度までの達成目標(数値目標)が明記されています。

特別支援学校関係の達成目標では、特別支援学校教諭免許状を保有している教員の割合が67%(H19)→75%(H25)に、企業へ就職した高等部の卒業生の割合が17%(H19)→30%(H25)に設定されています。小学校、中学校、高等学校の達成目標では、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成している学校の割合を小・中学校では100%(H25)に、高等学校では、個別の教育支援計画を作成している学校の割合を2%(H20)→80%(H25)としています。

今回は、推進プランで各学校に求められている具体的な取組をいくつか抜粋し、それに関連したセンターで可能な支援をまとめてみました。



| 項 目   | センターで可能な支援  |
|---|---|
| 校内支援体制の機能化<br>・個別の指導計画を作成している小・中学校の割合→100%(H25)<br>特別支援教育の観点を取り入れた授業改善<br>(以上小・中学校) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談(電話や来所された先生への支援)</li> <li>・サポートキャラバン(研修会, 研究会への講師)</li> <li>・学校コンサルテーション<br/>(個々の学校へ出向き, 支援体制への支援を実施)</li> <li>・8/4 特別支援教育授業づくり研修講座①通常学級における特別支援教育の観点から見た授業づくり(希望研修)</li> <li>・センター作成資料(通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり)</li> </ul> |
| 特別な支援を必要とする生徒に対する指導等の充実<br>・個別の教育支援計画の作成→80%(H25)<br>(高等学校)                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/28, 8/5, 8/18, 8/25 発達障害児の理解と支援研修講座(希望研修)</li> <li>・8/7, 8/27 特別支援教育教育相談研修講座(希望研修)</li> <li>・平成20年度センター所員研究「高等学校における発達障害のある生徒の支援に関する研究」</li> <li>・教育相談 サポートキャラバン 学校コンサルテーション</li> </ul>   |

※センター資料と所員研究は教育センターホームページで閲覧できます。



## センターとくとく情報

～メディアセンター編～



メディアセンターでは、出入り口付近に展示コーナーを設置し、パーティションボードに各部からのインフォメーション，県教委主催・共催の行事案内や出展された児童生徒の作品，授業に活用できる教材等を展示しています。現在は，特別支援教育部関係の教材教具の展示及び平成 20 年度の特別支援教育部員の研究成果のパネル発表が行われています。また，メディアセンターで購入した最新の図書の展示も行っています。（特別支援以外の本もたくさんあります。）連日，多くの方に見学していただき，大変うれしく思っております。まだご覧になっておられない方は，ぜひおいでください。なお，教材教具についての質問がございましたら，近くにいるセンター職員にお尋ね下さい。



展示期間は 6 月初旬までの予定です。特別支援関係展

【ソーシャルスキル教材】示の後は，教科書展示が行われます。

### 実践特別 支援教育

## 『ぼくも掃けたよ！』



小学校の特別支援学級に在籍する 2 年生の男の子，A ちゃんと一緒に縦割り班の掃除をしていた時のことです。ほうきを持った A ちゃんは，はっきりと見えるゴミならサッと掃けるのですが，よく見ないと分からないほこりのようなゴミはうまく見つけることができません。ほうきを持っていながら，つつい掃いていないことが多いです。机を後ろに運んだ教室は，大きいゴミもあるにはあるのですが，大半は砂ぼこりのように見つけにくいゴミばかり。A ちゃんにしてみれば（ゴミが見えないんだから，うまく掃けるわけないんだよな・・・）といったところなのでしょう。

そんな時，一緒に掃除をしていた 6 年生の 2 人の男の子が私に尋ねました。「先生，A ちゃん，どうして掃かんの？」「あんな，悪気があるわけじゃなくて，小さなゴミを上手に見つけられんよ。大きいゴミはちゃんと掃けるで」と私。

すると，しばらくして，彼らが A ちゃんに声をかけてくれました。「A ちゃん，こっちにおいで」声のする方に目をやると，なんと，彼らは砂ぼこりを掃き集めて，目に見える大きさのゴミに固めてくれていたのです。「A ちゃん，これ掃いて！」にっこりと笑った A ちゃんはサッとひと履き。それから，A ちゃんは小さく掃き集められたゴミを気持ちよさそうに何度も何度も掃いていきました。縦割り班という集団の中で，A ちゃんは，上級生の温かいかわりによって，自分が認められていることを実感しながら掃除をすることができたのです。

できなかったことをできるようにするために，本人のみに努力を求めてしまうことがあります。しかし，周囲のちょっとしたかわりの工夫によって，持っている力を発揮しやすくなるようにすることで，できることが増えていくこともあります。子どもたちが何に困っているかを丁寧に把握し，それにぴったりと合う支援を行うこと。特別支援教育の大切な視点ではないでしょうか。


（指導主事の実践より）



No.31  
 [平成21年6月24日]  
 岡山県総合教育センター  
 〒716-1241  
 加賀郡吉備中央町吉川 7545-11  
 TEL(代) (0866)56-9101  
 (特別支援教育部)(0866)56-9106  
 <特別支援教育部相談専用電話>  
 TEL (0866)56-9117  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>

今年度の研修講座がスタートしました。

山々の緑も雨に打たれて、色濃くなりました。先生方におかれましては日頃より、特別支援教育の推進及び教育センターの事業にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、教育センター特別支援教育部主催の研修講座も5月20日の「特別支援学級等新任担当教員研修講座」を皮切りにスタートしました。昨年度は11講座(22日)に延べ2,181人の先生方が参加してくださいました。今年度の研修は以下の予定です。今年度も多くの先生方のご参加を期待しております。

|                                 | 講座名                     | 講座日                |
|---------------------------------|-------------------------|--------------------|
| 職<br>能<br>研<br>修                | 特別支援学級等新任担当教員研修講座       | 5/20 6/16 8/3      |
|                                 | 特別支援学級担当教員スキルアップ研修講座    | 8/6                |
|                                 | 新任特別支援教育コーディネーター研修講座    | 5/22 7/27 10/29    |
|                                 | 医療的ケア研修講座               | 7/29               |
|                                 | 高等学校特別支援教育コーディネーター研修講座※ | 9/24               |
| 教<br>科<br>領<br>域<br>別<br>研<br>修 | 重度重複障害児の理解と支援研修講座       | 8/10               |
|                                 | 特別支援教育授業づくり研修講座         | 8/4 8/21           |
|                                 | 特別支援教育教育相談研修講座          | 8/7 8/27           |
|                                 | 発達障害児の理解と支援研修講座         | 7/28 8/5 8/18 8/25 |
|                                 | アセスメント研修講座              | 6/5 7/7            |
|                                 | 特別支援教育基礎研修講座            | 8/20               |
| 計                               | 11講座                    | 21日                |

職能研修は該当者対象の研修です。教科領域別研修は希望研修です。

※は今年度から実施される研修です。

講座ダイジェスト ～一人一人のニーズに対応した支援～

5月20日(水)にノートルダム清心女子大学講師、東俊一先生をお迎えし、特別支援学級等新任担当教員研修講座第1日の午前の講座において、障害のある子どもの理解と支援、指導内容・指導方法の工夫について「一人一人のニーズに対応した支援」をテーマに講義をしていただきました。



東先生は、一人一人のニーズに対応した支援を行うためには、子どものアセスメント(年齢、発達段階、IQ、コミュニケーションレベル、ADLなど)、環境のアセスメント(物理的環境<住環境など>、人的環境<周囲の人間>)、行動アセスメントが必要で、特に行動アセスメントが重要であることを強調されました。そして、行動アセスメントが有効に作用するためには、児童生徒の行動が明確で「一

つの事象」として認識されなければならないことを話されました。例として、『落ち着きが無い』という表現では、抽象的で曖昧ですが、『授業が始まって6分後に離席する』なら、だれもが確実にイメージすることが可能です。とても大切な視点だと感じました。

### 【アセスメントを基に行った、離席する児童への支援の実際】

なぜ離席するかを分析した結果、教師とのかかわりを求めての行動であると思われた。そこで児童への支援として、「授業が始まって5分経過したら、教師の方から声かけをして着席していることを褒める」「もし離席したら必要最低限のかかわりしか行わず着席させる」「他の児童が騒いでいる時に静かにしていたら、しっかりと褒める」以上の3点を行った。つまり、好ましくない行動が生起する前と、好ましい行動が見られた後にかかわることを支援としたのである。この結果、着席できる時間が少しずつ長くなった。

—東先生がかかわった教育相談での実践より—

実践特別  
支援教育

## ～生活単元学習のネタ～



知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校（学級）では、「各教科等を合わせた指導」である生活単元学習を実践している学校（学級）が多いのではないかと思います。生活単元学習として、どのような単元に取り組んでおられるのでしょうか。一般的には、「七夕会」「遠足に行こう」など、学校行事に関する単元が頭に浮かびますが、この他にも多くの単元（ネタ）が考えられます。

かつて私が勤務していた学校の場合、30分以内で移動できる範囲に、JRの駅、大型スーパー、郵便局、公民館、青果市場、教会、神社、牛小屋などが点在していました。そこで、これらの店舗や施設の利用や見学を通して、「アイスクリーム屋さんごっこをしよう」「おうちの人に手紙やはがきを出そう」「くだもの・やさいを見に行こう」「地図を作ろう」などを生活単元学習の内容として取り組みました。

具体的な展開を紹介しますと「アイスクリーム屋さんごっこをしよう」では、大型スーパーの中にある全国チェーンのアイスクリーム屋さんでの買い物を導入にして、アイスクリーム屋さんごっこを行い、学習のまとめとして、再度アイスクリームを買いに行きました。学習活動としては、準備として紙粘土でアイスクリームを作ったり、紙でお店のお姉さんの帽子を作ったり、バニラ、チョコ、ストロベリーなどの商品名を文字や絵で表現したり、店内の飾りつけを行う創作活動を行いました。次に、お店の人とお客に分かれてやり取りを行いました。お店の人役は、「いらっしゃいませ」「(サイズは)Sにしますか? Mにしますか?」「カップにしますか? コーンにしますか?」「〇〇円いただきます」「ありがとうございました」などをチェーン店のマニュアル通りに接客します。お客役は「〇〇をください」「S(M)をください」「カップ(コーン)でください」などと必要な内容を伝えたりお金を支払ったりします。この活動の中には、図工、生活、算数、国語、道徳、自立活動など様々な学習内容を取り入れましたが、全国チェーンのお店で子どもたちがよく知っていたことや、マニュアルに沿ったやり取りのため取り組みやすかったということもあり、興味・関心をもって取り組んでくれ、一人一人が力を発揮してくれました。

その他にも、手紙やはがきをポストに入れた後、その手紙が集配される郵便局までJRを利用して行き、本物の消印を押させてもらったり、市場へ行って、倉庫いっぱいの熟成させる前の青いバナナを見せてもらったり、様々な楽しい活動を行いました。皆さんの学校の周辺には、どんなネタがありますか?



(特別支援教育部職員の実践より)



No. 3 2  
 [平成 21 年 9 月 30 日]  
 岡山県総合教育センター  
 〒716-1241  
 加賀郡吉備中央町吉川 7545-11  
 TEL(代) (0866)56-9101  
 (特別支援教育部)(0866)56-9106  
 〈特別支援教育部相談専用電話〉  
 TEL (0866)56-9117  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>

## 夏期研修講座へのご参加,ありがとうございました。

秋晴れの心地よい季節となりました。各学校の先生方におかれましては、運動会も無事終了し、「勉強の秋」本番に向けての準備をされているのではないかと推察いたします。

さて、7・8月に実施いたしました岡山県総合教育センター特別支援教育部主催の研修講座（希望研修）には多数の先生方に参加していただきました。参加者数は下記の表の通りですが、今年も「特別支援教育授業づくり研修講座」に定員を上回る受講希望者があり、特別支援教育の観点を生かした授業づくりに対する先生方の関心の高さが伺われました。また、今年度の「発達障害研修講座」の中の2日間は「就学前・小学校児童への支援」と「中学校・高等学校生徒への支援」と、校種を限定した講座でしたが、自分の属する校種ではないのに参加してくださった先生が多数おられました。

どの講座にも熱心に参加してくださった上に、アンケートにもていねいに答えて下さり、誠にありがとうございました。先生方の声を来年度の研修講座に反映し、より充実した研修講座にしていきたいと思っております。

特別支援教育部主催希望研修講座（教科領域別研修）参加者数

| 講座名               | 講座実施日              | 参加者数  |
|-------------------|--------------------|-------|
| 重度重複障害児の理解と支援研修講座 | 8/10               | 36人   |
| 特別支援教育授業づくり研修講座   | 8/4,8/21           | 182人  |
| 特別支援教育教育相談研修講座    | 8/7,8/27           | 98人   |
| 発達障害児の理解と支援研修講座   | 7/28,8/5,8/18,8/25 | 283人  |
| アセスメント研修講座        | 6/5,7/7            | 52人   |
| 特別支援教育基礎研修講座      | 8/20               | 79人   |
| 計6講座              | 計12日               | 計730人 |

## 貴重なご意見をいただきました。～アンケートより～

研修講座に参加された先生方に、研修終了後アンケートをお願いしておりますが、多くの先生方に貴重なご意見をいただきました。「入館時にBGMが聴こえ、リラックスできた」

「昼休憩が1時間になってよかった」等の新しい取り組みについての肯定的なご意見や、「講座で使われた資料をHPで掲載してもらえるとありがたい」「研修講座で紹介してもらった書籍を詳しく知りたい」等の要望をいただきました。貴重なご意見、ありがとうございました。

ご要望につきましては、「特別支援教育つうしん」等を通してできるだけお応えしていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。



<重度重複障害児研修講座より>

## 講師の先生が講座で準備された資料を紹介します!

受講者アンケートにお応えする第1弾として、8月18日に実施した「発達障害児の理解と支援研修講座」で実践発表をされた、瀬戸内市立邑久小学校の倉元圭子先生が用意してくださった講座資料からいくつかピックアップして紹介します。

### 発達障害児の理解と支援研修講座 小学校の児童への支援・学級経営 ～特別支援学級における支援～

2009/8/18  
岡山県総合教育センター

瀬戸内市立邑久小学校  
倉元 圭子

《教室環境の工夫》  
教室全体が大きく3つのスペースに区切られており、そこでは何をすればよいか、非常に分かりやすくなっています。

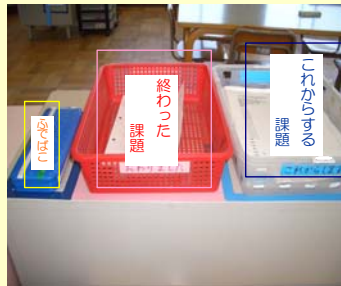
こんな教室です



こんな教室です(個別学習)



こんな教室です(個別学習)



こんな教室です(共同学習)



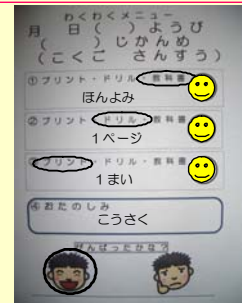
こんな教室です(ごろりん)



### 《学習支援》

学習の順番(終わり)を明確にするため、この時間は何をがんばるかを自分で決め、メニュー表に記入します。授業後にシール等を貼って評価します。

学習支援(わくわくメニュー)

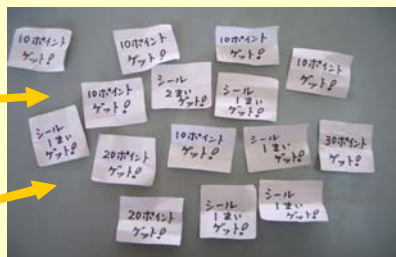


### 学習支援(勉強がんばるもんカード)

べんきょうがんばるもん! ( )まいめ

|                           |    |    |    |    |     |
|---------------------------|----|----|----|----|-----|
| ① いちごステージ (1~20まい)        | 6  | 7  | 8  | 9  | 10  |
| ② バイオアップステージ (21~40まい)    | 11 | 12 | 13 | 14 | 15  |
| ③ りんごステージ (41~60まい)       | 16 | 17 | 18 | 19 | 20  |
| ④ さくらんぼステージ (61~80まい)     | 21 | 22 | 23 | 24 | 25  |
| ⑤ ドラゴンフルーツステージ (81~100まい) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30  |
|                           | 31 | 32 | 33 | 34 | 35  |
|                           | 36 | 37 | 38 | 39 | 40  |
|                           | 41 | 42 | 43 | 44 | 45  |
|                           | 46 | 47 | 48 | 49 | 50  |
|                           | 51 | 52 | 53 | 54 | 55  |
|                           | 56 | 57 | 58 | 59 | 60  |
|                           | 61 | 62 | 63 | 64 | 65  |
|                           | 66 | 67 | 68 | 69 | 70  |
|                           | 71 | 72 | 73 | 74 | 75  |
|                           | 76 | 77 | 78 | 79 | 80  |
|                           | 81 | 82 | 83 | 84 | 85  |
|                           | 86 | 87 | 88 | 89 | 90  |
|                           | 91 | 92 | 93 | 94 | 95  |
|                           | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 |

月 日 ( )まいめがおわりました。よくがんばったね。おめでとう!



### 《学習支援》

自分のがんばりが見えるように終わったプリントの数に印を付けます。ポイント制で、ポイントがたまるとお楽しみが待っています。(お楽しみはシールゲット等)こんなカードがあると、自分のがんばりを実感しながら楽しく学習できますね。

### 《教具の工夫》

リコーダーの穴を上手にふさげない児童のために、うおのめパッドを貼りました。効果抜群！素晴らしいアイデアです。

### ● 学習支援(うおのめパッド)



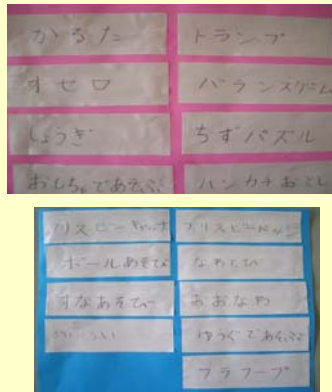
### ● 学習支援(教具の開発・工夫)

#### リライト教材

教科書の本文を子どもにわかりやすい表現に書き換えた教材



### ● 生活支援(余暇指導)



### 《生活支援》

余暇の活用が苦手な子どもたち。時程表に休み時間に行うことを記入し、計画的に余暇を過ごします。どんな過ごし方があるかは、室内でできること、室外でできることをまとめて表にしてあります。その中から選択します。

### 《生活支援》

好きな時に絵を描いたり、工作をしたり、本を読んだりできるように準備しています。古本屋さんに行くと1冊100円で魅力的な本が購入できるそうです。

### ● 生活支援(余暇指導)



### ● 生活支援(余暇指導)

#### 工作の材料



### ● 生活支援(自分を知る)

なまえ  
ニックネーム  
学年  
生年月日  
家族  
得意なこと  
将来の夢



《生活支援》嫌いなものも書きます。マイナスがあってもOK! 自分の長所・短所を認識しつつ自尊感情を育てます。

もっともっと紹介したいのですが、スペースの関係で、残念ですが・・・。

倉元先生の実践は、今現在が良ければというのではなく、将来の自立を常に視野に入れての取り組みだと感じました。講座の最後に、子どもの行動の裏には必ず原因(理由)がある。「わがままと決め付けると、支援が終わってしまう」と話されたのが大変印象的でした。



No. 3 3

[平成 21 年 12 月 1 日]

岡山県総合教育センター

〒716-1241

加賀郡吉備中央町吉川 7545-11

TEL(代) (0866)56-9101

(特別支援教育部)(0866)56-9106

〈特別支援教育部相談専用電話〉

TEL (0866)56-9117

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>

## 研修講座へのご参加，ありがとうございました。

吉備高原に吹く風も冷たくなってまいりました。新型インフルエンザの感染について大きく報道されておりますが，先生方の学校（園）の様子はいかがでしょうか。

さて，本年度の岡山県総合教育センター特別支援教育部主催の研修講座も，10月29日（木）のコーディネーター研修講座③をもってすべて終了いたしました。どの研修講座にも熱心に参加してくださり，ありがとうございました。また，講師をお願いした先生方にはお忙しい中，快く応じてくださり深く感謝いたしております。本年度の研修講座の傾向としては，以下のことがあげられます。

① 昨年に続き，授業づくりの参加希望者が多かった。

特に通常学級における特別支援教育の視点での授業づくりは希望者が多く，真剣に受講してくださいました。来年度も，実践に役立つ具体的な内容と実践を支える理論的な内容とのバランスを考えて，よりニーズに応えることのできる研修を実施したいと思います。

② どの講座も実践発表や演習が好評であった。

今年度は，個別の指導計画作成，模擬ケース検討会等，演習を多く取り入れました。アンケートによると，多くの先生方が有効性を感じてくださっています。演習の内容を，校内あるいは地域に伝達していただければと思っています。

③ 発達障害の基礎的な講座については，昨年に引き続き参加者が減少傾向にある。

発達障害の基礎的な内容については，校内研修や地域での研修，特別支援学校の公開講座等，研修の機会が増えたことで受講者が減少していると思われます。基礎的な講座については見直しを行いたいと考えています。

特別支援教育部では，今年度の研修講座を総括し，先生方により有効性を実感していただけた研修講座を開催していきたいと，次年度に向けての準備を進めております。次年度の方向性や具体的な内容が決定いたしましたら，「特別支援教育つうしん」でお知らせしたいと思います。ご期待ください。



## 講座資料紹介パート2 ～通常学級における支援～



<発達障害の理解と支援研修講座>

受講者アンケートにお応えする第2弾として，「発達障害児の理解と支援研修講座」で，通常学級における支援について実践発表してくださった，岡山市立操南小学校の下村幸子先生の実践を，用意してくださった資料から紹介いたします。

先生のご発表に，イラストや当日補足してくださった内容を付け加えての紹介になっています。

# 「小学校の児童への支援，学級経営

## ～通常学級における支援～

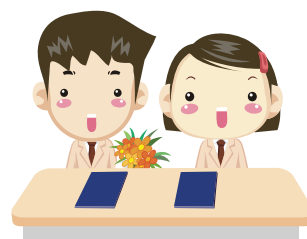
岡山市立操南小学校教諭 下村 幸子

### 1 はじめに

- ・学級づくりでいつも心に置いていること

誰もが安心して居られる学級づくり

- ・通常学級における支援 2つの視点
  - ① 個の変容を支える。 ② 受け入れ，支え合う学級集団をつくる。



### 2 個への支援～その子の成長，変容を支える～

#### (1) 課題を見極め，指導方針を決める

- ① とにかく行動をよく見て，気が付いたことを書き出してみる。

例えば・・・

- ・教室にいられない。ふらふら出て行く。
- ・友達の気を引こうとして，友達の物を取る。隠す。
- ・「僕できんもん。」「どうせぼくのことなんか。」とすねる。
- ・注意されると暴言を吐く。暴れる。
- ・何かを決める時，じゃんけんで負けて泣きわめく。
- ・ひらがなが読めない。書けない。



- ② 課題を決めて，手だてを考える。

(例) 課題1：教室が自分の居場所と思えるようにする。

⇒ 手だて①：大好きな折り紙をおいて，教室に折り紙コーナーをつくっておく。

手だて②：授業の始まりに簡単なゲームをして楽しい時間をつくる。

(授業を楽しい時間にし，抵抗感をなくす)

課題2：友達とのよいかかわりがもてるようにする。

手だて：昼休みは担任も一緒に遊び，ルールを守って遊んだ時の楽しい気持ちを繰り返し体験させる。(ブランコ等を変えてもらう時のお願いの仕方は，教室で指導する)

#### (2) 担任との信頼関係をつくる

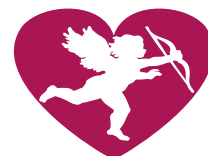


先生のそばにいと安心する。  
先生にほめられたらうれしいな。  
こんな関係をつくることが，まず第一歩。

- ① できないこと，苦手なことにゆっくり，じっくりつき合う。そして，一緒に成功体験を味わう。(例，漢字プリントに再テストで何回も挑戦，できたら OK)

※混乱している時には距離をおき見守るなど，その子の特性に応じたかかわり方がある。

- ② ○○さんのことが大好きだよというメッセージを言葉で伝える。





③小さなことでもしっかりほめる。

・ほめほめ日記の例

連絡帳にがんばったこと、友達に親切にしたことや、その子のよい所を書いてほめる。本人も読めるように、ひらがなで読みやすく書く。保護者にも、よかったことや学校でがんばっている様子が伝わる。



きゅうしょくとうばんのしごとがじょうずにできたよ。うれしかったよ。あさのべんきょうのさんすうプリントもがんばったね。

### (3) 自尊感情を高める

特別な支援を要する子どもの中には、失敗経験の積み重ねにより、自尊感情、自己肯定感が低い子どもがいる。「わかった！できた！うれしいな！」という体験や、「〇〇さん、ありがとう。」「〇〇さん、すてきだね。」「〇〇さん、すごい」という周りからの言葉が自尊感情を高め、やる気や友達とのよりよい関わりにつながっていく。

- ①少し練習したらできるようになることを、できるようにする。(成功体験をふやす・・・なわとび、こま回し、リコーダーetc)
- ②得意なことで活躍の場をつくる。
- ③学級の中で役割をもち、仕事をする場をつくる。
- ④できたことをほめ、学級の中で認める。



## 3 支えあう学級集団をつくる。

### (1) 担任の願いを語る

特別な支援を要する子どもに対し、担任がどのような思いで見守り、かかわっているか。担任の姿勢は、そのまま学級の子どもに反映される。

〇〇さんとみんなと33人で一緒に勉強するのが、先生の夢なのよ。



〇〇さんが、イライラした時も、やさしく応援してほしいな。

※担任のイライラ（態度）は、クラスの子どもたちに伝わる。

### (2) 学級の中で認め合う

その子の存在そのものを認める。

その子のよさや、がんばったことをほめて認める。

担任と子どもとの関係をつくる。(縦の糸)



子ども同士の関係をつないでいく。(横の糸)  
様々な個性が受け入れられる集団に。

2つの認め

①個の成長を学級の中の出来事として、みんなに伝える。

※その子に対する不満も認めつつ、良い面を伝える。

②学級の中で、お互いにプラスのメッセージを送りあう。

- ・ありがとうカード
- ・誕生日カード
- ・Xからの手紙



### (3) 周りの子どもへの配慮

学級の子どもたちが不満や不公平感を抱いていたなら、支えあう学級集団をつくることはできない。学級の子どもたちの心が安定していることが、よりよい関係をつくっていく上で欠かせない。



周りの子どもたちの心を安定させるには・・・

①学級の子ども一人ひとりが大切にされていると感じることができる。

※遊んでいる時にいきなりパンチされたり、遊びのじゃまをされた子がいたら・・・。「いやだったねー。注意しとくから。」と、どんな小さなことでも受け止め、その後で、パンチは仲よくしたいサインだということを説明する。小さい不満、不安を見逃すのは危険。

②叱る時、叱らない時が明確になっている。

※「ここまでは叱らない。ここからは叱る。」というラインを明確にする。

例、努力しても困難な課題(45分席に着いておく)は叱らないが、教室から外に出たら叱る。けん玉を振り回すような危険な行動は叱る。

③学級のみinnで話し合う場合は・・・。(対象児童も参加)

※ア「何がいけないか」 イ「どうしたらよかったか」 ウ「これからどうするか」を確認する。

例、順番が待てないA君がB君をつきとばして、コマを取った・・・。

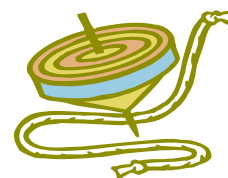
ア 「口で言わないのがいけない」

イ 「口で(ことば)頼めばよい」

ウ 「これからは、ことばで言う」

※時々、その子の課題について触れ、変容を話すことも必要。

「4月には教室に入れなかったけど、今はがんばってるね・・・」



## 4 教室環境と授業での配慮

### (1) 教室環境の工夫

- ・黒板にその日の予定を書く枠をつくっておく。
- ・教室全面の提示はシンプルにする。

### (2) 課題に取り組みやすくするための工夫

- ・漢字、ひらがなが苦手な子には、なぞり書きができるようにお手本を書く。
- ・練習問題などは5問、10問ずつに分けてする。  
(見通しが立ちやすい。少しがんばればできる。)
- ・友達との教え合いを取り入れる。  
(友達がモデルになる。)



### (3) 指示するとき、注意するときの工夫

集中がとぎれ、席を離れた時は、その子がそれまでに行った活動を認め、その後、軽く着席を促す。

※-の指示でなく、+の言葉かけをする。

「座らないとダメ」ではなく、「ここまでよくがんばったね。もう少しがんばろうか。」

混乱している時の言葉には、反応しない。こまっていることの原因のみに反応する。

※お手本を示す。  
作業を手伝う。

指示は短くスッキリと。

※わかりやすい指示。



注意を促すときは、視線や指差しなどで行い、言葉を使わないこともある。

※周囲の子どもたちが気にしなくてすむ。

## 5 保護者との関係づくり

### (1) 思いや願いを知る

(2) 担任の考える指導方針、手だてを考える問題だけを言いつばなしにしない。

(3) 学校での様子をこまめに伝えるプラスのを中心に。



### 参考文献

『特別支援教育 学級担任のための教育技術』青山新吾他編著 学事出版

下村先生の実践は、「個への支援」と「支えあう集団づくり」が柱となっています。通常学級における特別支援教育では、この2つが不可欠です。

平成19年に文部科学省より出された『特別支援教育の推進について(通知)』には、特別支援教育の理念について「特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。」と記された一文があります。

下村先生の実践は、特別支援教育の理念に添った、すばらしい実践だと思います。

＜岡山県総合教育センター 特別支援教育部＞



No.34  
[平成22年3月24日]  
岡山県総合教育センター  
〒716-1241  
加賀郡吉備中央町吉川 7545-11  
TEL(代) (0866)56-9101  
(特別支援教育部)(0866)56-9106  
(特別支援教育部相談専用電話)  
TEL (0866)56-9117  
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>

来年度も研修講座への参加を、お待ちしております。

県内各地で、春の便りが聞かれ、いよいよ今年度も残りわずかとなってまいりました。先生方におかれましては、この一年を振り返り、子どもたちの成長を実感されているのではないかと思います。

さて、岡山県総合教育センター特別支援教育部では、今年度の研修講座の総括を行い、平成22年度の研修について以下のように計画いたしました。



～平成22年度研修講座実施予定一覧（希望研修）～

★  
◆ **NEW 発達障害研修講座（6/25, 7/30, 8/2）**

障害特性の理解に関する基礎的な内容（6/25）、社会自立及び二次的な障害予防への支援に関する発展的な内容（7/30, 8/2）について研修します。

◆ **特別支援教育授業づくり研修講座（8/18, 8/25）**

小・中学校の通常の学級（8/18）、特別支援学校及び特別支援学級（8/25）における授業づくり・授業改善について研修します。

◆ **特別支援教育教育相談研修講座（7/29, 8/9）**

講義・実践発表を通して、障害のある子どもの保護者及び本人への教育相談について研修します（7/29）。また、演習を通してケース会議の進め方についても研修します（8/9）。

★  
◆ **NEW 特別支援教育スキルアップ研修講座（7/7）**

個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導である「自立活動」を取り上げ、講義・実践発表・演習を通して研修します。

◆ **アセスメント研修講座（8/3, 8/4）** 宿泊による参加が原則

WISC-Ⅲ, K-ABCの検査実施・読み取り、支援への生かし方について研修します（8/3）。また、講義・演習を通して、アセスメントについて研修します（8/4）。 ※8/3の夕方は、事例検討を行います。

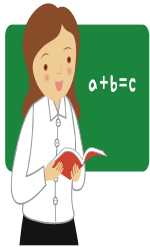
◆ **重度・重複障害児の理解と支援研修講座（7/26）**

重度・重複障害児の理解と支援について、コミュニケーションの視点から研修します。また、個別の指導計画作成について、講義・演習を通して研修します。



～この1年間、たくさんのご示唆をいただきました。～

特別支援教育つうしんも、今年度の最終号となりました。今回は、研修講座の講師の先生方のお話の中から実践的な内容を中心に、いくつか紹介いたします。



・環境を整えることによって問題行動は減少しますが、それに満足するのではなく、落ち着いた環境の中で、どのように本人に力を付けていくのかを考える必要があります。あまりにも保護しすぎると、新しい環境に適応が難しくなります。(例えば・小学生の時は落ち着いていたのに、中学生になったら・・・)

・担任の先生を支援する際には、その先生が納得し、主体的に考えていけるようにサポートすることが大切です。「〇〇してください」と助言してもうまくいくケースは少なく、その先生自身が解決方法を導き出すことができるように支援できれば、おおむね成功します。

※新任特別支援教育コーディネーター研修講座②より

川崎医療福祉大学准教授 武井 祐子 先生

・友達から嫌なことを言われると、衝動的に教室から飛び出し屋根に上ってしまう児童への好ましい対応は・・・？



・厳しく叱っても本人の特性から、怒られたことだけが残りがちです。したがって対応としては、危険であることをアッサリと伝えるのがよい対応です。(短期的な対応)

・根本的な対応としては、授業で活躍できる場面が増えるように配慮し、友達から認められることによって行動をコントロールできるようにします。(長期的な対応) 短期的な対応をしつつ、長期的に取り組むことが大切になります。

※発達障害児の理解と支援研修講座①より

兵庫教育大学教授 宇野 宏幸 先生



・保護者が教師から言われて傷ついた言葉として、「〇〇してあげないと△△できないんです」があります。これは、「〇〇してあげたら△△できるんです」と言い換えたほうが適切です。

そのことによって、支援につながります。

※特別支援教育教育相談研修講座より

兵庫教育大学講師 嶋崎 まゆみ 先生

本年度から Web 発信となりました、「特別支援教育つうしん」ですが、多くの皆様のご協力をいただき、今年度は6回配信することができました。心より感謝いたします。来年度も、特別支援教育の推進に努力いたしますので、よろしく願いいたします。

岡山県総合教育センター 特別支援教育部

